

3. 在宅高齢者を支援するためのモデル的試行の実施

3.1 モデル的試行実施の目的・実施内容

本モデル的試行は、令和5年度厚生労働省老健事業「在宅高齢者の多様な状態を踏まえた福祉用具貸与事業所の支援のあり方に関する調査モデル研究事業(実施:日本福祉用具供給協会)」の事業成果を踏まえつつ、より幅広い高齢者支援への取組を検討することを目的とした。具体的な実施テーマは以下の通りとし(各1か所)、それぞれの地域において取組を実施した。

テーマ① 要支援以前の地域在住高齢者も支援するための福祉用具貸与事業所の望ましいあり方

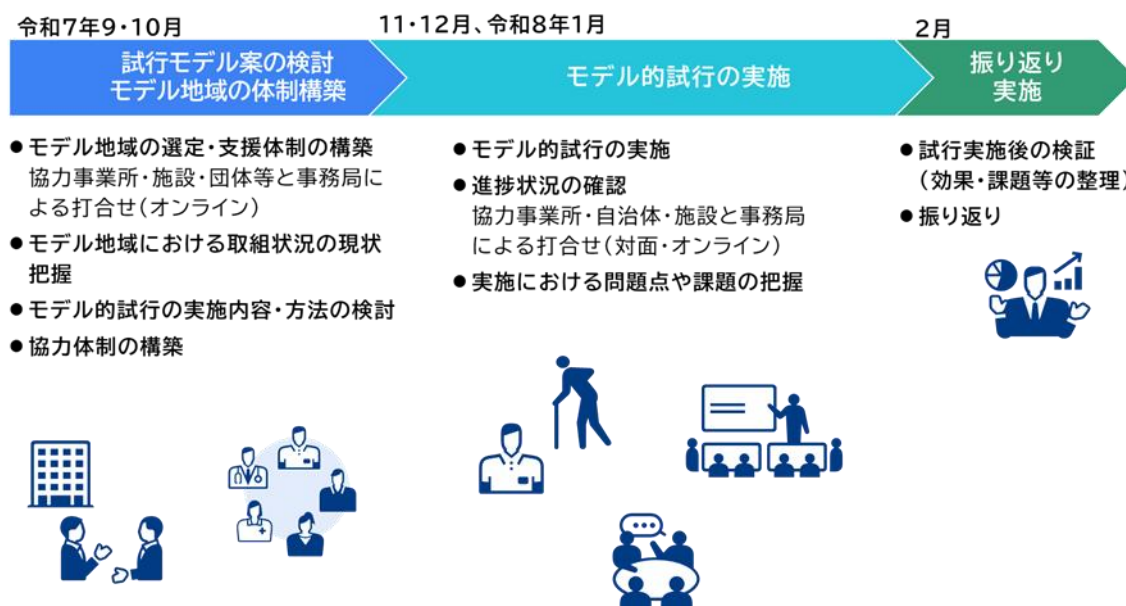
テーマ② 福祉用具専門相談員を含む多職種による、地域の自主グループ支援(通いの場)

テーマ③ 円滑な在宅生活のための福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援(介護老人保健施設からの退所時支援)

3.2 取組スケジュール

モデル的試行の対象利用者の選定、実施内容・方法等は、第1回検討委員会にて検討・確認し、各テーマでご協力いただいた事業所・施設・団体等を主体として支援を実施した。第2回検討委員会にて進捗状況を確認し、取組終了後、各テーマにて支援内容の振り返りを実施した。モデル的試行の実実施スケジュールは以下の通り。

図表 79 モデル的試行の実施スケジュール



3.3 各テーマの取組内容

3.3.1 テーマ①

要支援以前の地域在住高齢者も支援するための福祉用具貸与事業所の望ましいあり方

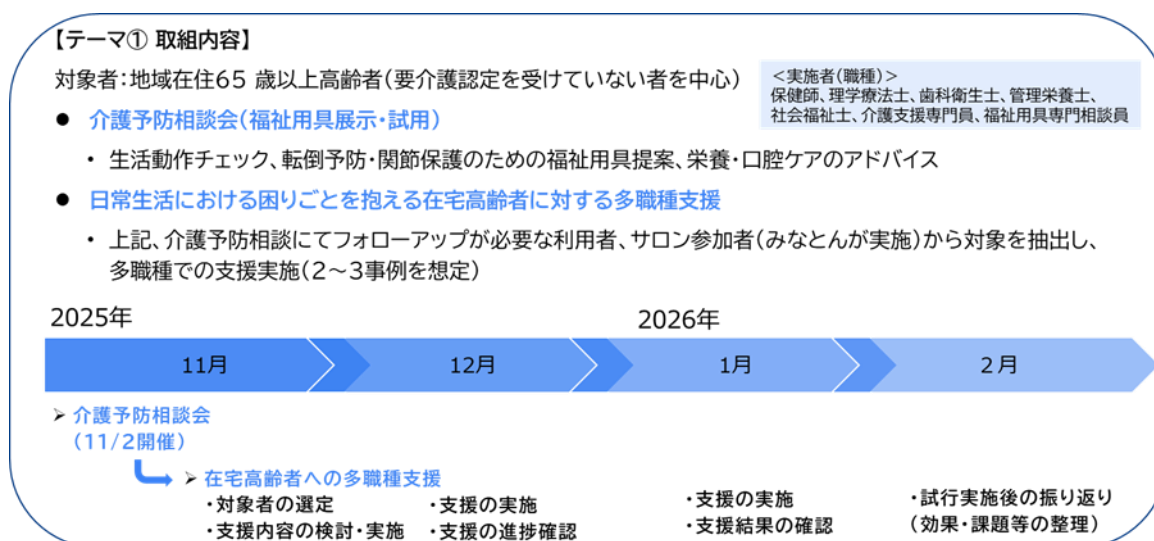
(1) モデル地域

協力機関：地域包括支援センター2件、福祉用具貸与事業所1件

(2) 取組内容

取組の実施概要は以下の通り。

図表 80 テーマ①実施概要



1) 介護予防相談会（福祉用具展示・試用）を通じた地域高齢者への支援

a. 実施概要

地域の中で月1回開催されているイベントにおいて、介護予防相談会を開催した。

保健師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉用具専門相談員が協力し、地域在住の65歳以上高齢者（要介護認定を受けていない者を中心とする）を対象に、生活動作チェック、転倒予防・関節保護のための福祉用具提案、栄養・口腔ケアのアドバイスを実施した。

介護予防相談会では、①AIによる歩行分析、②運動相談（握力測定、立ち上がり）、③栄養相談、④福祉用具相談（介護保険制度に関わらない福祉用具や便利グッズの展示・相談）、⑤口腔機能相談について、参加者が順に体験・相談をしていける動線上に各ブースを設置した。また、各ブースでの測定結果や相談内容等を記録に残し、参加者アンケートとともに回収した。これらの結果を基に、個別支援を実

施する対象を抽出し、介護予防相談会以降、月1回のフォローアップを実施した。

図表 81 介護予防相談会・会場



図表 82 参加者の様子



(メイン会場の様子)



(介護予防相談会の様子)

b. 取組実施に向けた準備

本取組実施にあたり、関係者との定期的な打合せを実施した。当日までのスケジュール、当日の役割は以下の通り。

図表 83 介護予防相談会 開催までのスケジュール

開催日	打合せ内容	参加者
2026年 9月11日	実行委員 打合せ	事業の趣旨、内容の説明
9月24日		実施内容の確認
9月24日	福祉用具 打合せ	福祉用具貸与事業所(福祉用具専門相談員) 在宅総合センター(管理者)
10月3日	在宅総合セ ンター管理者 会議	在宅総合センター(管理者) その他管理者
10月5日	会場下見①	福祉用具貸与事業所(福祉用具専門相談員) 在宅総合センター(管理者) 地域包括支援センター(職員) 介護老人保健施設(保健師)
10月6日	栄養・口腔 打合せ	在宅総合センター(管理者) 地域包括支援センター(職員) 介護老人保健施設(歯科衛生士、管理栄養士)
10月21日	リハビリテー ション打合せ	在宅総合センター(管理者) 通所リハビリテーション(理学療法士)
10月27日	最終打合せ	福祉用具貸与事業所(福祉用具専門相談員) 在宅総合センター(管理者)
10月29日	会場下見②	地域包括支援センター(職員) 介護老人保健施設(保健師、理学療法士、 歯科衛生士) 通所リハビリテーション(理学療法士)
11月1日	会場設営	—
11月2日	介護予防 相談会当日	—
		各ブース担当者
		全関係者

図表 84 介護予防相談会 当日の役割

統括		在宅総合センター(管理者)
事務局		福祉用具貸与事業所(福祉用具専門相談員)
実行委員		在宅総合センター(管理者) 福祉用具貸与事業所(福祉用具専門相談員) 地域包括支援センター(職員)
相談担当	福祉用具	福祉用具貸与事業所(福祉用具専門相談員)
	リハビリテーション	介護老人福祉施設(理学療法士) 通所リハビリテーション(理学療法士) 訪問リハビリテーション(理学療法士)
	栄養	介護老人保健施設(管理栄養士)
	口腔	介護老人保健施設(歯科衛生士)

c. 実施結果

ア) 介護予防相談会

開催日時:2025年11月2日(日)9:00~11:00

参加者 :32名

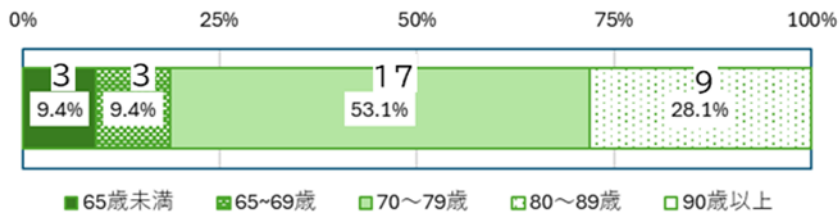
当日実施した参加者アンケートの結果は以下の通り。

① 参加者の基本情報

参加者の年代は「80~89歳」が最も多く、53.1%(17名)だった。

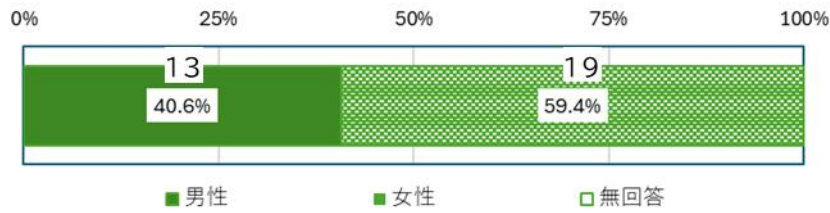
性別は「女性」が多く、59.4%(19名)だった。

図表 85 年代



(回答者 32名)

図表 86 性別



(回答者 32 名)

② 介護予防相談会について

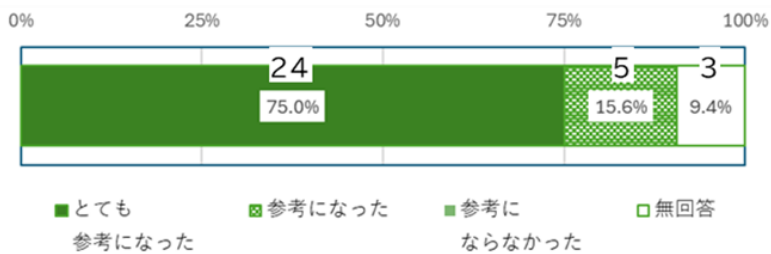
介護予防相談会が今後の生活の参考になったかについて、「とても参考になった」が最も多く75.0%(24名)だった。

福祉用具の展示が今後の生活の参考になったかについて、18名が「自分の知らなかった商品を知ることができた」と回答し、次いで17名が「使ってみたい商品があった」と回答した。

「使ってみたい商品があった」と回答した方のうち、使ってみたい商品の詳細については、「栄養補食品」が6名、「くつ」が5名、「くつした」が4名だった。

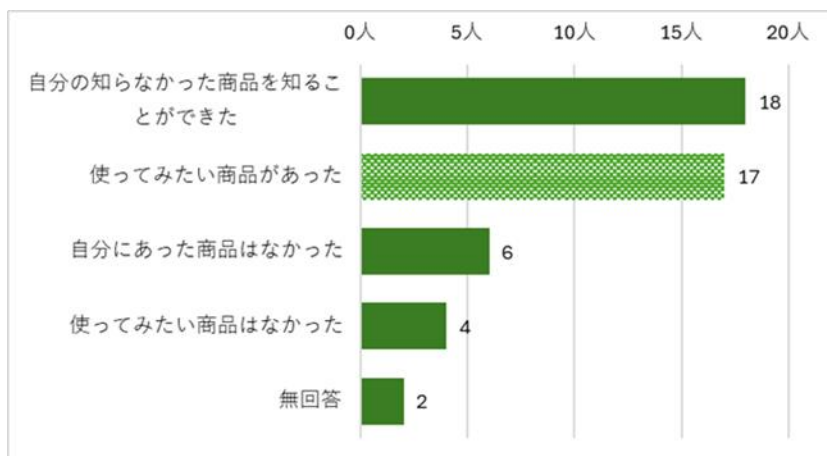
また、今回のようなイベントが開催された際、また参加してみたいかについて、「参加したい」が93.8%(30名)だった。

図表 87 本日の相談会は、今後の生活の参考になりましたか



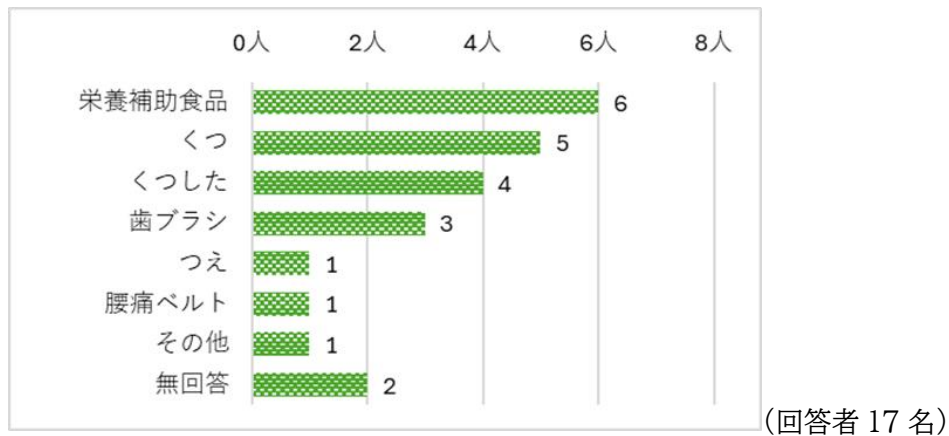
(回答者 32 名)

図表 88 福祉用具の展示は、今後の生活の参考になりましたか(複数回答)

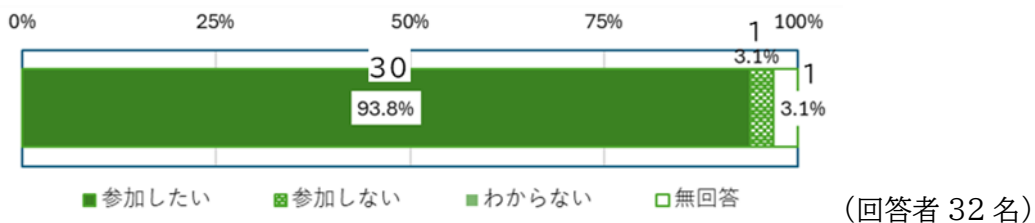


(回答者 32 名)

図表 89 「使ってみたい商品があった」と回答した方:使ってみたい商品(複数回答)



図表 90 今回のようなイベントが開催された際、また参加してみたいですか



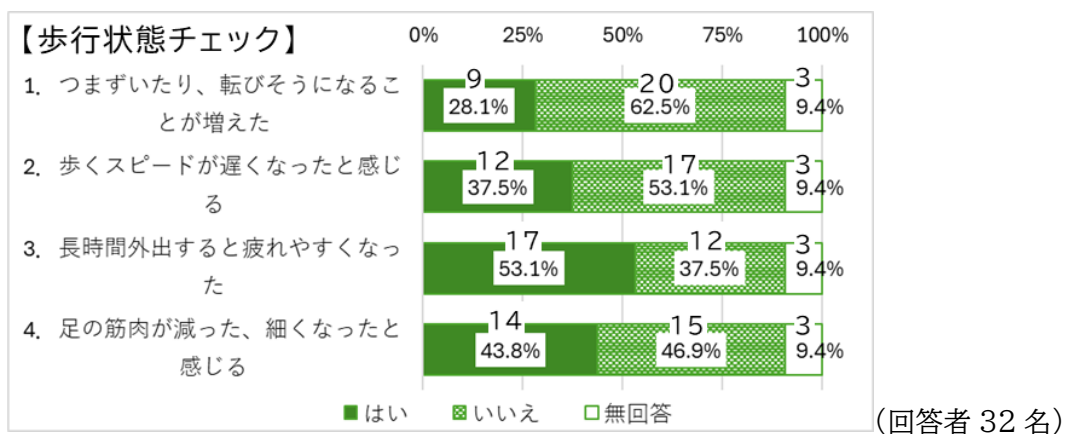
③ 日常生活の困りごと

歩行状態チェックでは、「長時間外出すると疲れやすくなった」で「はい」が 53.1%(17 名)、「足の筋肉が減った、細くなったと感じる」で「はい」が 43.8%(14 名)だった。

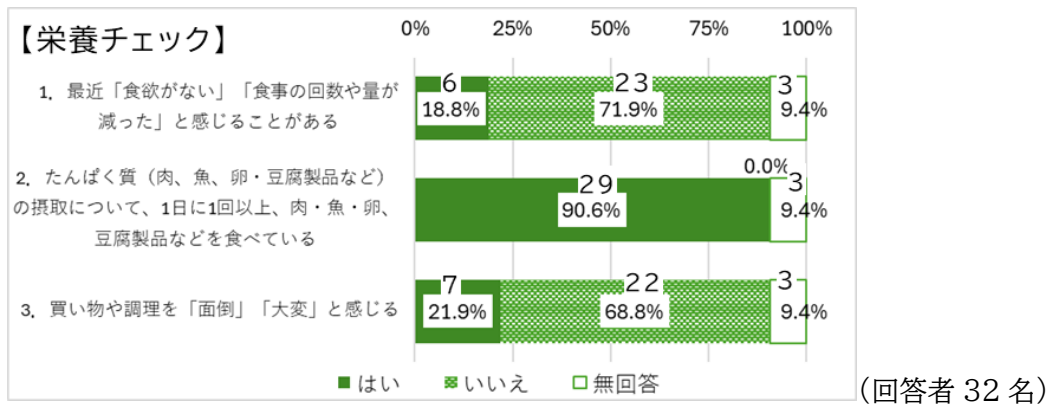
栄養チェックでは、「タンパク質(肉、魚、卵、豆腐製品など)の摂取について、1日に1回以上、肉・魚・卵、豆腐製品などを食べている」で「はい」が 90.6%(29 名)だった。

お口の環境チェックでは、「口が乾きやすい」で「はい」が 43.8%(14 名)、「口臭が気になる」で「はい」が 37.5%(12 名)だった。

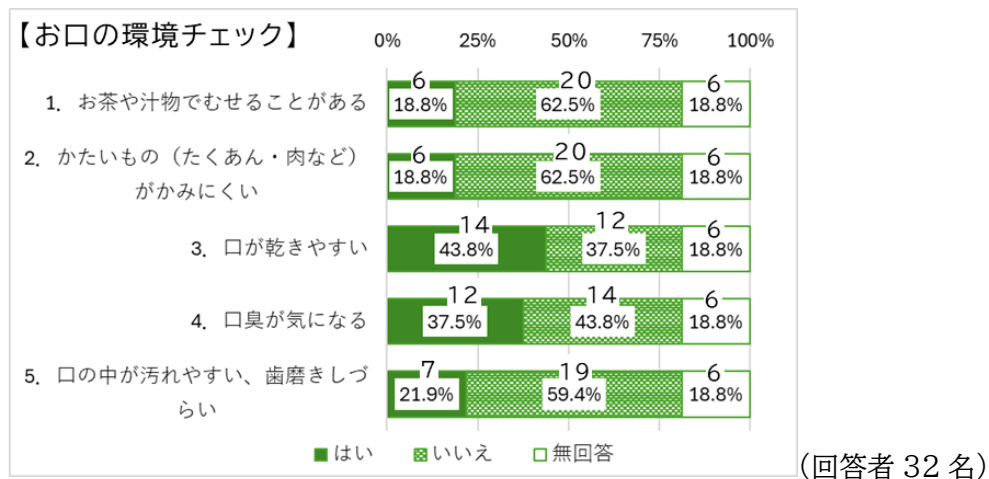
図表 91 歩行状態チェック



図表 92 栄養チェック



図表 93 お口の環境チェック




イ) 相談会後のフォローアップ

介護予防相談会での参加者アンケート結果を踏まえ、フォローアップが必要と判断した参加者(3名)を対象に、主に口腔ケア用品の提供と口腔ケアのアドバイスを行った。実施概要と対象者への支援内容は以下の通り。

図表 94 実施スケジュールと取組内容

2025/11/2 介護予防相談会開催	<ul style="list-style-type: none"> 歩行分析トルト・福祉用具相談、展示品試用、カタログ配布、口腔相談記録、歯ブラシ試供・栄養補助食品の試食、相談 アンケート実施
2025/12/7 使用状況確認①	<ul style="list-style-type: none"> 口腔ケア用品エラックを試供した参加者(3名)へ1カ月後の使用状況確認
2026/1/11 使用状況確認②	<ul style="list-style-type: none"> 口腔ケア用品エラックを試供した参加者(3名)へ2カ月後の使用状況確認 協力へのお礼

図表 95 支援内容(Aさんの場合)




【相談内容】口臭がする・唾液が少ない(PH:7.0)

唾液腺マッサージ・エラック(歯ブラシ)試供

2025/12/7 使用状況確認 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ (試供した)歯ブラシは継続して利用している。 ・ 11/2の健診はおもしろいと思った。またあれば参加したい。
2026/1/11 使用状況確認 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ (試供した)歯ブラシは継続して利用している。 ・ 普段から自分なりにその他の口腔ケア用品も併用して気を付けている。 ・ 歯ブラシは1日2回行っている。

図表 96 支援内容(Bさんの場合)




【相談内容】唾液が口角より流れる(PH:5.5)

健口体操の指導・エラック(歯ブラシ)試供

2025/12/7 使用状況確認 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ (試供した)歯ブラシは継続して利用している。 ・ やわらかいので、自分には合っており上等了。
2026/1/11 使用状況確認 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ (試供した)歯ブラシは継続して利用している。 ・ やわらかいので舌のケアにも使ってみます。 ・ 歯ブラシは1日2回行っている。

図表 97 支援内容(Cさんの場合)



かかりつけ歯科医院あり(PH:5.75)

食後にうがいを勧める。・エラック(歯ブラシ)試供

2025/12/7 使用状況確認 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ (試供した)歯ブラシは継続して利用している。 ・ これまで使用していた歯ブラシよりやわらかいので上等了。歯医者にも月1回は受診しています。
2026/1/11 使用状況確認 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ (試供した)歯ブラシは継続して利用している。 ・ やわらかいので舌のケアにも使っています。 ・ 歯ブラシは1日2回行っている。

ウ) 取組実施後の検証(振り返りのヒアリング)

本取組における福祉用具専門相談員としての支援内容や得られた効果、今後の課題について振り返りのヒアリングを実施した。ヒアリングで得た内容は以下の通り。

図表 98 取組実施後の検証:ヒアリング結果

<p>福祉用具専門相談員としての関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月開催しているイベントの中で相談会を実施したが、毎月参加される方ばかりではなく、継続したフォローアップをしていくことは困難と想定していたため、まずは、<u>多くの方に福祉用具を知ってもらう</u>ということを目的として実施した。 ・ 継続したフォローアップが可能だった方は3名(相談会で試供した歯ブラシを使っていた可能性のある方)。<u>フォローアップ時に、福祉用具専門相談員も同席し、他の福祉用具の要望を聞き取ったが、新たな要望がなく福祉用具に関する支援に至らなかった。</u> ・ 今回の取組において工夫した点は、福祉用具単体で展示ブースを設けるよりも、歩行診断や口腔ケア、栄養食品の試食など、<u>多職種が合同で様々な方法で興味を持ってきていただける仕組み(会場レイアウト)を作ったこと</u>である。地域包括支援センターの協力も得て、レイアウトの工夫をして開催することができた。
<p>取組の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の効果は目に見えてはいないが、<u>このような取組を行うことで、地域の方に介護を必要としない方でも困りごとを福祉用具で解決できる場合があること、相談できることを知っていただけた。</u> ・ 今後、このような取組等を通じて、地域に選ばれる福祉用具貸与事業所になっていきたい。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具専門相談員の考え方を変えなければならないと感じた。要支援以前の地域在住高齢者への支援を行うには、どうしても時間と労力がかかり、それが会社にとってどの程度の影響をもたらすかを先に考えてしまう。要支援以前の高齢者が必要とする福祉用具は比較的安価な商品が多いため、積極的に取り組もうという考えにあまり至らないかもしれない。 ・ <u>福祉用具専門相談員としての専門性を地域課題の解決に活かすことで、地域に選ばれる福祉用具貸与事業所となり、長期的な顧客の獲得にもなる</u>というところまでを考えられるよう意識を変えていかなければならないと感じた。


2) 日常生活における困りごとを抱える在宅高齢者に対する多職種支援

a. 実施概要


毎週開催されている地域のサロンへの参加者を対象に、生活動作チェック、転倒予防・関節保護のための福祉用具提案等を実施することとした。サロン参加者からは「歩きたい」「運動したい」というニーズを事前に把握していたことから、握力測定や歩行分析を行ったうえで、個別に必要な福祉用具を選定し、自宅等で利用してもらい、その後、月1回のフォローアップを実施した。

図表 99 実施スケジュールと取組内容

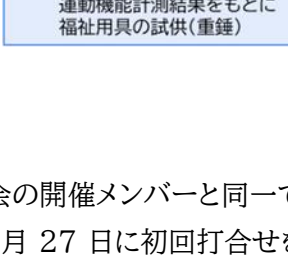
【実施スケジュールと取組内容】	
2025/11/6 運動機能分析	<ul style="list-style-type: none"> トルト、握力計測、片足立ちのデータ、アンケートを実施 多職種で今後の支援内容検討
2025/11/12 運動機能結果分析	<ul style="list-style-type: none"> 11月6日の集計・分析結果を共有 多職種で今後の支援内容検討
2025/11/13 運動機能分析結果発表	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能結果発表と結果をもとに参加者各自への支援プランの説明
2025/11/27 試供品の配布・使用説明、運動指導	<ul style="list-style-type: none"> エクササイズたまご・トレーニングチューブ・重錘・靴下など個別の運動機能計測結果に基づいて選定した福祉用具を配付し、福祉用具専門相談員からの使用説明(対象:11名) 理学療法士による運動指導
2025/12/18 中間アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具を試用して1カ月目の運動機能計測 使用状況の確認
2026/1/29 最終アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具を試用して2カ月目の運動機能計測 使用状況の確認 前回(1カ月目)の結果発表
2026/2/5 総合結果発表	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能結果発表とご協力へのお礼



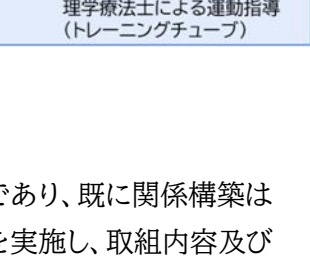
歩行分析AIトルトによる計測



片足立ち・握力測定



運動機能計測結果をもとに福祉用具の試供(重錘)



理学療法士による運動指導(トレーニングチューブ)

b. 取組実施に向けた準備

本取組実施にあたっての関係者は、介護予防相談会の開催メンバーと同一であり、既に関係構築は十分にできている状況であった。よって、2026年10月27日に初回打合せを実施し、取組内容及び全体のスケジュールについて共有した。その後、10月30日に支援対象のサロン参加者と初回打合せを実施し、その際に参加者から日頃の困りごとの聞き取り(アセスメント)を行った。その後、初回の体力測定等を11月6日に実施し、サロン参加者への具体的な支援について開始した。初回測定以降の具体的な支援状況は、上記、図表 99 の通りである。

c. 実施結果

実施期間:2025年11月~2026年2月

参加者 :11名

ア) 支援内容

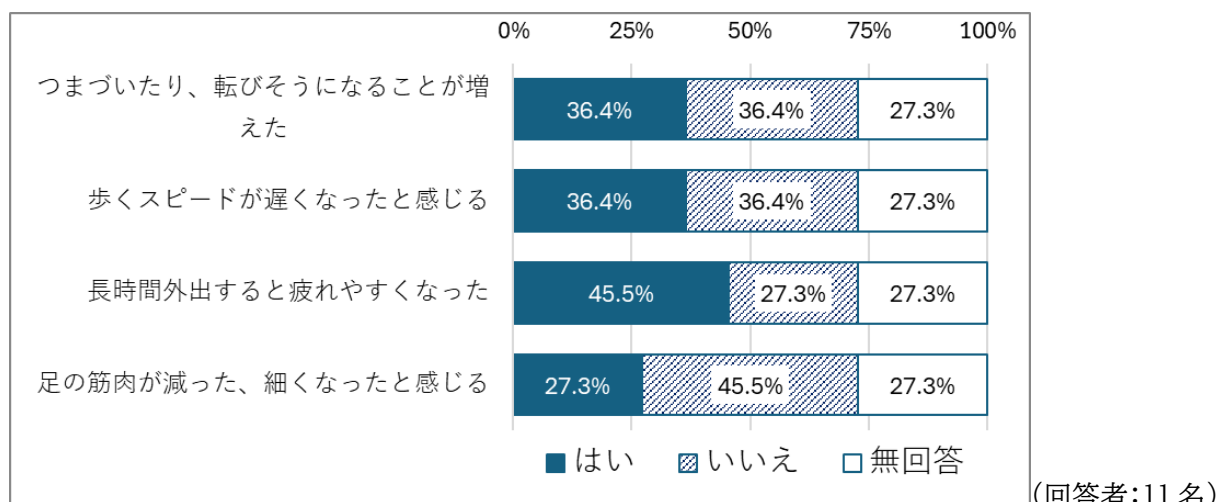
支援開始の初回に歩行分析、握力計測、片足立ちのデータ収集及び、歩行に関する日常生活における困りごとを把握した。その結果を踏まえ、多職種で個々の支援内容について検討し、福祉用具の試供品の提供や運動指導等を定期的実施し、その後の参加者の変化を確認した。

参加者の概要及び、個別の支援内容は以下の通り。

図表 100 参加者の基本情報・測定結果

ID	基本情報		測定結果					備考
	年齢(歳)	性別	握力(右)	握力(左)	立ち上がり(右)	立ち上がり(左)	歩行分析(満点20)	
A	89	女性	16.0	12.0	×	×	18	
B	—	女性	—	—	○	×	17	
C	84	女性	15.0	14.5	×	×	18	
D	83	女性	18.0	16.0	○	○	17	
E	76	女性	—	20.0	○	○	18	
F	85	女性	14.0	16.0	×	×	18	
G	84	女性	16.5	15.0	×	×	18	
H	81	女性	—	—	○	○	—	初回不参加
I	87	女性	8.0	8.0	×	×	17	
J	89	女性	13.0	10.5	×	○	18	
K	86	女性	—	—	○	○	—	初回不参加

図表 101 歩行に関する日常生活における困りごと



図表 102 福祉用具等による個別の支援内容

ID	筋トレなどの運動指導	福祉用具による支援				
		エクササイズ たまご	トレーニング チューブ	重錘	転倒予防靴 下	その他
A	リズム足踏み、リズムかかと上げ	●	●		●	
B	—	●	●			
C	リズム足踏み、リズムかかと上げ	●	●			
D	リズム足踏み、リズムかかと上げ	●	●	●	●	腰痛ベルト
E	リズム足踏み、リズムかかと上げ	●	●			
F	立ち上がり運動、かかと上げ	●				
G	リズム足踏み、リズムかかと上げ	●	●	●		
H	—	●				
I	リズム足踏み、リズムかかと上げ	●	●			
J	立ち上がり運動、かかと上げ	●	●			
K	—	●	●			

イ) 支援結果

参加者 11 名のうち、初回およびフォローアップ(2 回)の全3回について、全て参加した対象者(6名)について、握力計測、歩行分析の結果を比較した。集計対象は上記(図表 102)のうち、ID.A~F である。

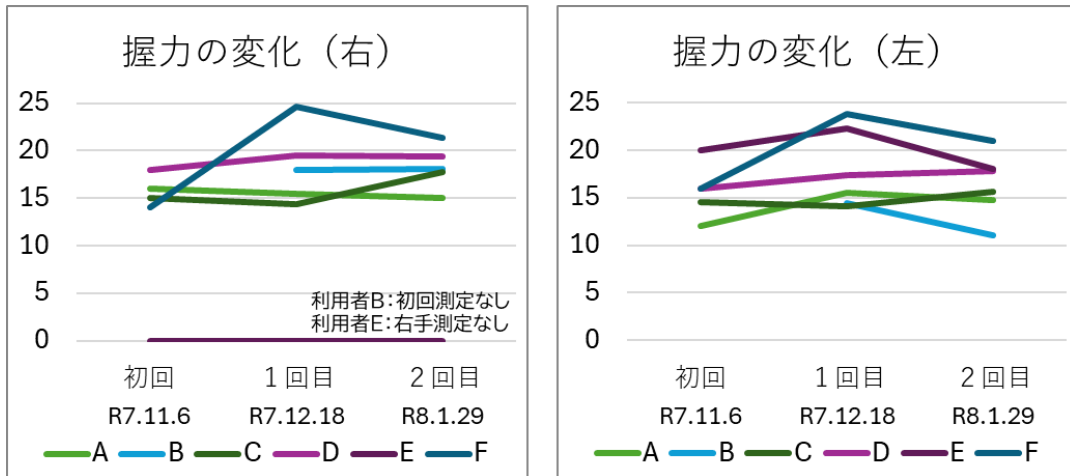
握力の変化(右)は6名中3名が初回測定時よりも向上した(1名は初回測定なし、1名は右手測定なし)。握力の変化(左)は6名中4名が初回測定時よりも向上した。(1名は初回測定なし)。

立ち上がりの測定結果については右・左いずれも大きな変化は見られなかった。

歩行分析(トルト)の結果は6名中 5 名が初回測定時よりも向上し、1名は初回の点数を維持した。

歩行に関する日常生活における困りごとの変化では、「つまずいたり、転びそうになることが増えた」の設問については、初回に「はい」と回答した方が 6 名中3名(50%)だったが、2 回目のフォローアップの際には6名中1名(16.7%)となった。

図表 103 測定結果の変化:握力



図表 104 測定結果の変化:立ち上がり

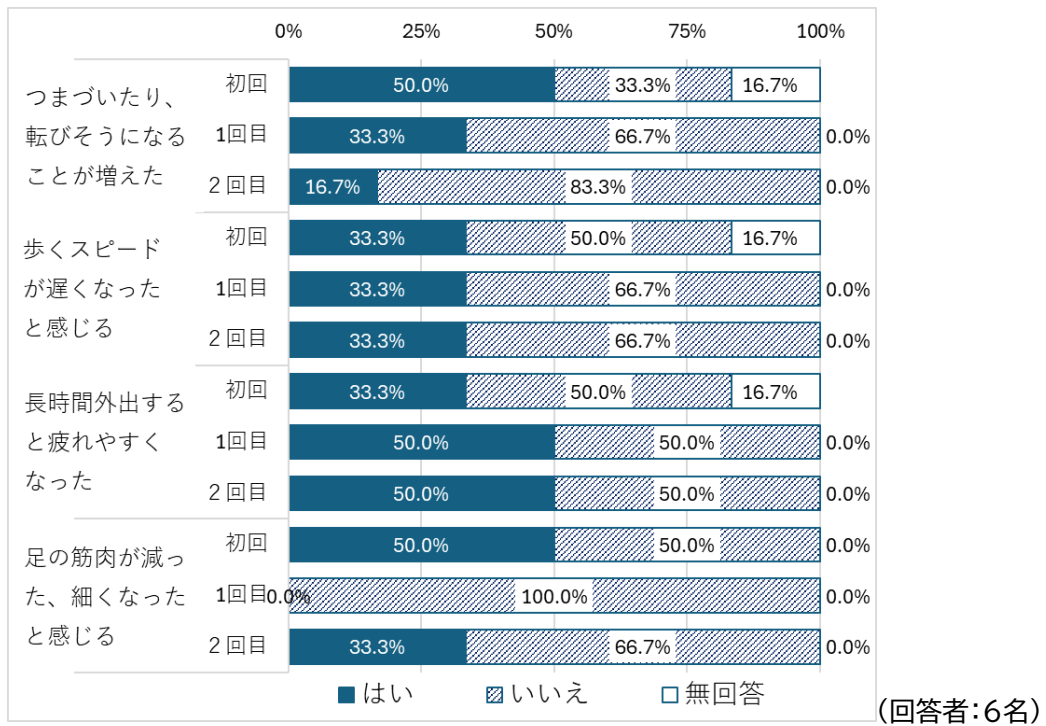
立ち上がり：右				立ち上がり：左			
ID	初回 R7.11.6	1回目 R7.12.18	2回目 R8.1.29	ID	初回 R7.11.6	1回目 R7.12.18	2回目 R8.1.29
A	×	×	×	A	×	×	×
B	○	×	×	B	×	×	×
C	×	×	×	C	×	×	×
D	○	○	○	D	○	○	○
E	○	○	○	E	○	○	○
F	×	○	×	F	×	×	×

図表 105 測定結果の変化:歩行分析(トルト)

ID	初回 R7.11.6	1回目 R7.12.18	2回目 R8.1.29
A	18	19	19
B	17	16	18
C	18	19	19
D	17	16	20
E	18	19	19
F	18	18	18

(満点:20点)

図表 106 歩行に関する日常生活における困りごとの変化



ウ) 取組実施後の検証(振り返りのヒアリング)

本取組における福祉用具専門相談員としての支援内容や得られた効果、今後の課題について振り返りのヒアリングを実施した。ヒアリングで得た内容は以下の通り。

図表 107 取組実施後の検証:ヒアリング結果

福祉用具専門相談員としての関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援内容の検討にあたり初回の聞き取りを重視した。現状の体の痛みやしびれを持っている動作などを積極的に話された参加者に対して、どのような用具を利用いただくことで支援ができるかを考えた。 ・ 参加者共通の支援内容の検討については、<u>理学療法士と相談のうえ、運動指導と合わせて利用いただく用具を福祉用具専門相談員として選定・提案した。</u> ・ 1 回目のフォローアップの際、運動機能の結果を見ながら個別に利用者話し、追加の提案が必要かも検討した。参加者全員に機能の維持・向上が見られ、追加の用具の提案はなく、継続することとした。 ・ 今後も地域包括支援センターが参加者と関わりながら、福祉用具が必要となった場合にはすぐにフォローができるようにしていくことを関係者間で話し合っている。
取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果発表では、相談記録をまとめたもの、3 か月分のトルトの結果を個別にご説明しつつお渡しした。自身の数値が上がっていることを喜んでいただけた。 ・ 体操などの運動をして健康を維持されている高齢者でも、さらに健康に地域で過ごしていくために、<u>ご自身に必要な福祉用具を活用する方法もあるということを知っていただけたと思う。</u>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元々運動を実施しており、福祉用具の必要性を感じていない高齢者も多かった。フレイルチェックやトルトの歩行分析等で数値化することで必要性に気づいていただく工夫をした。しかし、その場合には<u>数か月単位での伴走型の支援が必要になるため、時間を要することが課題であると感じた。</u> ・ 元気な高齢者にとっては、介護用品やリハビリ用品という言葉に抵抗を感じる方もいる。トレーニング用品など、受け入れやすい言葉で紹介することが必要と感じた。<u>元気に暮らしていくための用具も取り扱っているというイメージをどのようにアピールしていくかが課題と感じた。</u>

(3) 取組効果と課題

テーマ①では要支援以前の地域在住高齢者も支援するための福祉用具貸与事業所の望ましいあり方を検討するため、介護予防相談会(福祉用具展示・試用)を通じた地域高齢者への支援、日常生活における困りごとを抱える在宅高齢者に対する多職種支援の2つの取組についてモデル的試行を実施した。この取組を通じ、振り返りのヒアリングにおいて、以下の課題や今後に向けた取組について把握した。ヒアリングで得た内容は以下の通り。

図表 108 多職種支援の実践に向けた課題・今後のあり方について:ヒアリング結果
(福祉用具専門相談員の意見)

- ・ 多職種との情報共有を行い、支援が必要になる前の高齢者が把握できるネットワークづくりが必要と感じた。今回実施した市は活動が活発な地域であるため、可能であれば市以外の地域包括ケアシステムの中でも介護予防の支援を促進できると良いと感じた。
- ・ 他地域でも類似の取組を実施するにあたっては、地域在住の高齢者と関わる機会をどのように確保するかが課題と感じる。日頃から地域の方々に様々な形で支援を行っている地域包括支援センターと繋がって、定期的に取り組を実施していくことが最も実現しやすいと改めて感じたが、このような活動をしている地域包括支援センターは県内でも少ない。地域によって、活発に活動しているのが地域包括支援センターなのか、自治会や老人会、社会福祉協議会なのか等を見極めたうえで連携していく必要がある。
- ・ 福祉用具の展示や紹介、カタログの配布等は可能だが、集客を行うには試供品の提供が必要と考えており、その費用をどのように捻出するかは課題である。メーカーに依頼して試供品を提供いただく方法もあるが、参加者の興味を引くようなものが必ずしも提供しただけのわけではない。
- ・ 今後実践していきたいこととしては、イベントでの展示の継続に加え、地域の大型スーパーでの啓発活動も行っているため、そのようなより利便性の高い窓口での啓発活動にも参加させてもらえないかを検討している。

3.3.2 テーマ②

福祉用具専門相談員を含む多職種による、地域の自主グループ支援(通いの場)

(1) モデル地域

通いの場(サロン)※運営団体:地域包括支援センター

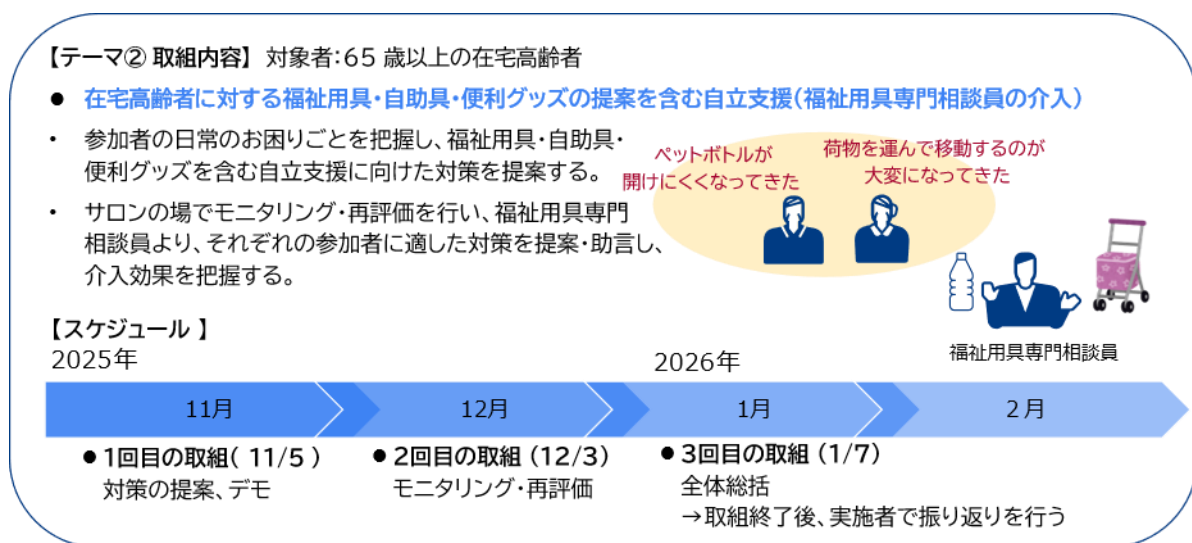
協力機関:福祉用具貸与事業所1件

(2) 取組内容

1) 実施概要

取組の実施概要は以下の通り。

図表 109 テーマ②実施概要



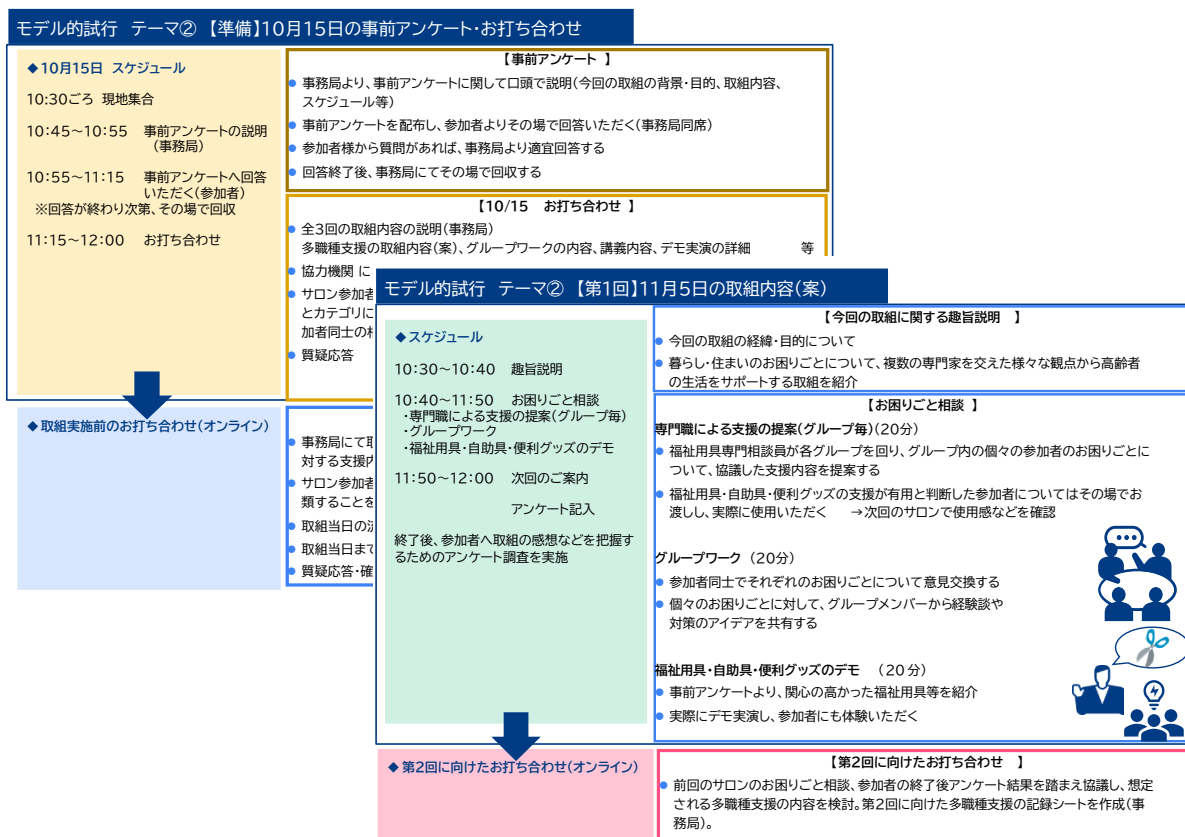
2) 取組実施に向けた準備

10月1日、地域包括支援センターの関係者、協力機関である福祉用具貸与事業所との打ち合わせを実施し、全3回の取組で実施する支援内容を協議した。

10月15日、通いの場の参加者に対し、事前アンケートを実施した。事前アンケート結果を踏まえ、本取組で取り扱うテーマを協議・決定した。

各取組終了後、参加者アンケートの集計結果をもとに、地域包括支援センターの関係者、協力機関である福祉用具貸与事業所との振り返りを行い、実施した支援内容について効果と課題を共有した。(各取組に向けた打合せ資料は図表 110 に示す)

図表 110 (参考)打合せ資料



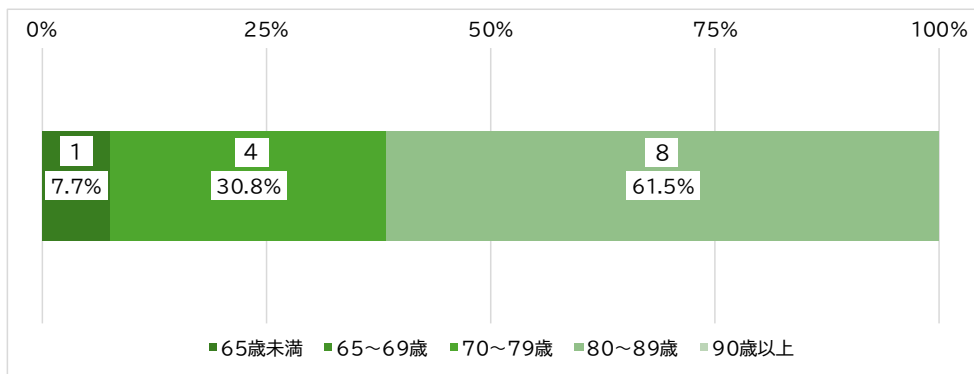
3) サロンにおける取組内容(全3回)

a. 事前アンケート調査の実施

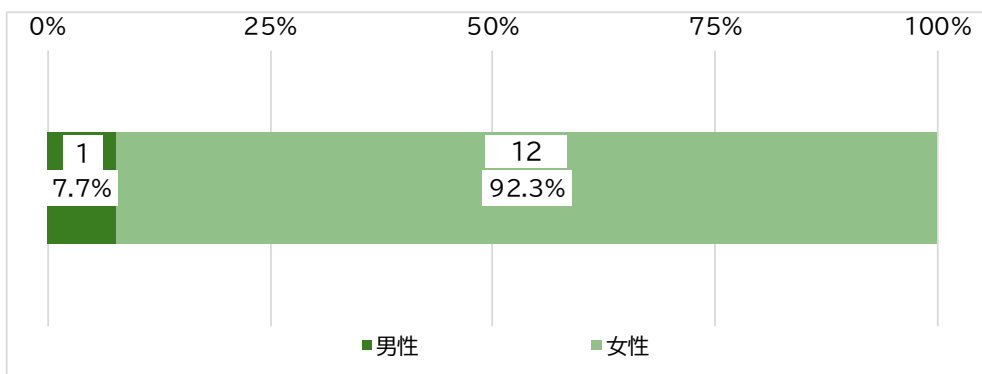
対象となる在宅高齢者の抱えている「お困りごと」を把握するため、取組を実施する前に、事前アンケートを実施した。使用した調査票は 5.3 に示す。事前アンケート調査における「お困りごと」の調査項目は、ADL・IADL より抽出した項目のうち、協力機関の福祉用具貸与事業所で取り扱い可能な福祉用具・自助具・便利グッズ等により改善が見込める動作とした。

事前アンケート調査の回答者は 13 名で平均 79.0 歳であった。年代は、80～89 歳が最も多く 61.5%であった。性別は女性が 12 名、男性1名であった。

図表 111 年代

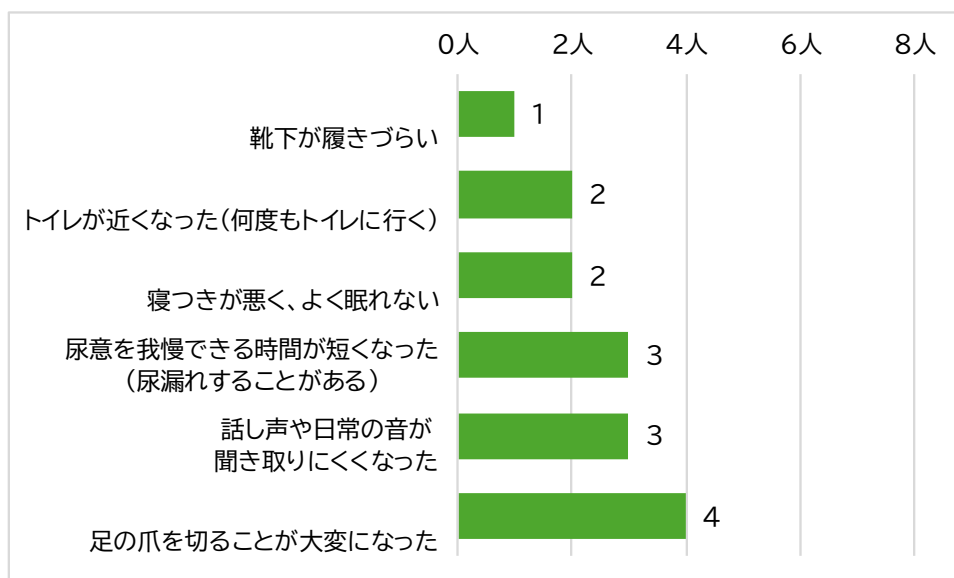


図表 112 性別

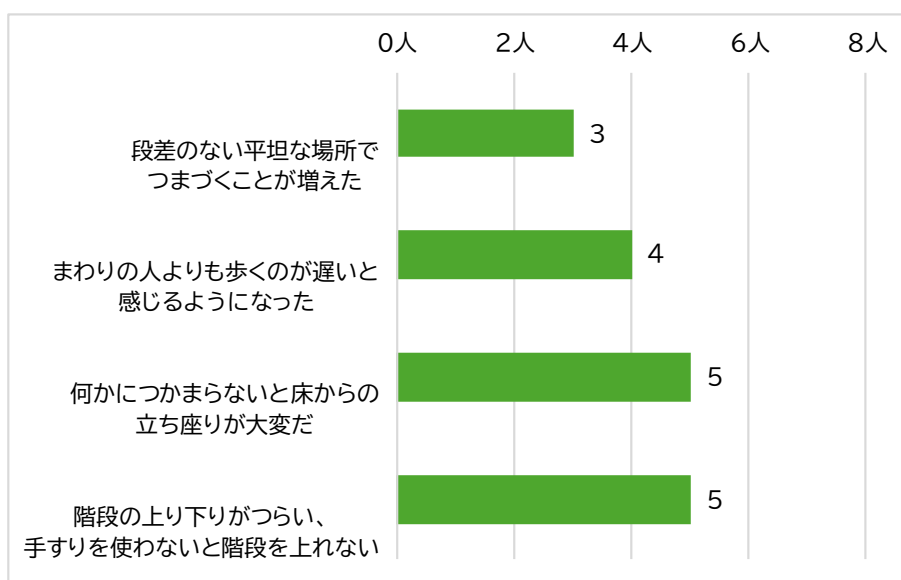


日常生活の「お困りごと」について該当するものを聞いたところ、本テーマの参加者においては、「荷物を持って移動したり、荷物を運ぶことが大変になった」(7 件)、「階段の上り下りがつらい、手すりを使わないと階段を上れない」(5 件)といった買い物や屋外移動に関連する動作や、「ペットボトルや瓶などの蓋が開けにくい」(5 件)、「料理の際、固いものを包丁で切ることが難しくなった」(5 件)といった食事の準備に関する「お困りごと」が多く挙げられた。

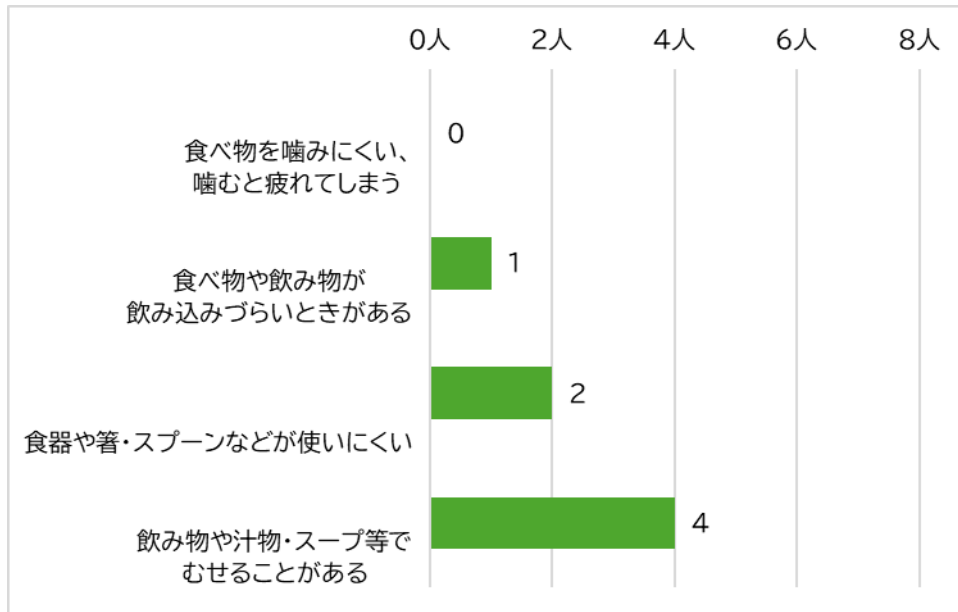
図表 113 日常を過ごすうえで「お困りごと」(複数回答)



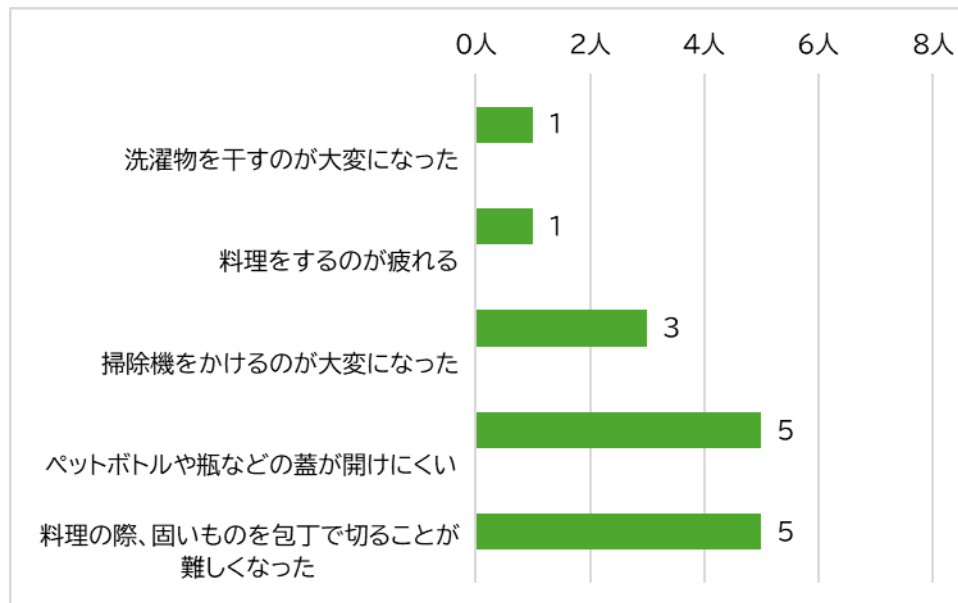
図表 114 体の動き、運動に関する「お困りごと」(複数回答)



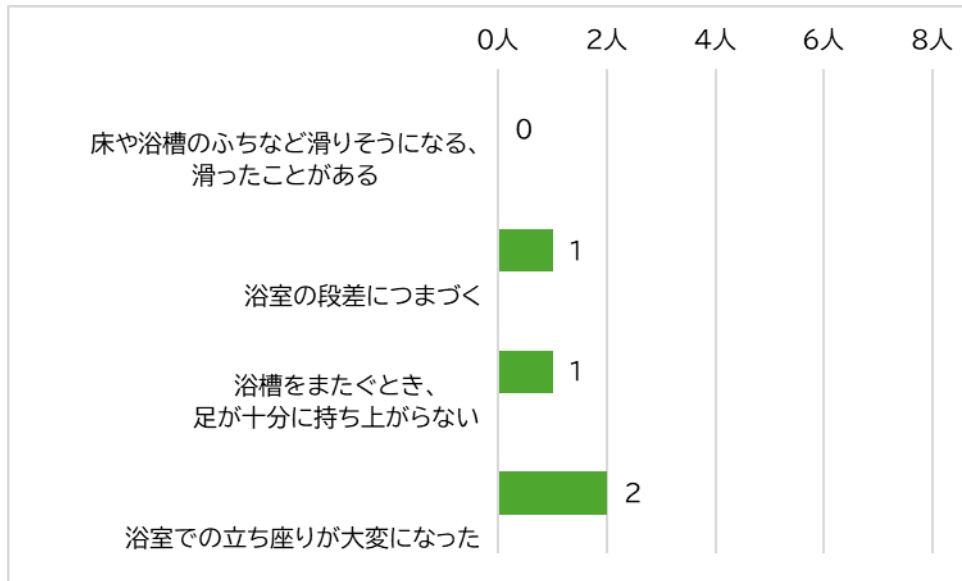
図表 115 食べ物に関する「お困りごと」(複数回答)



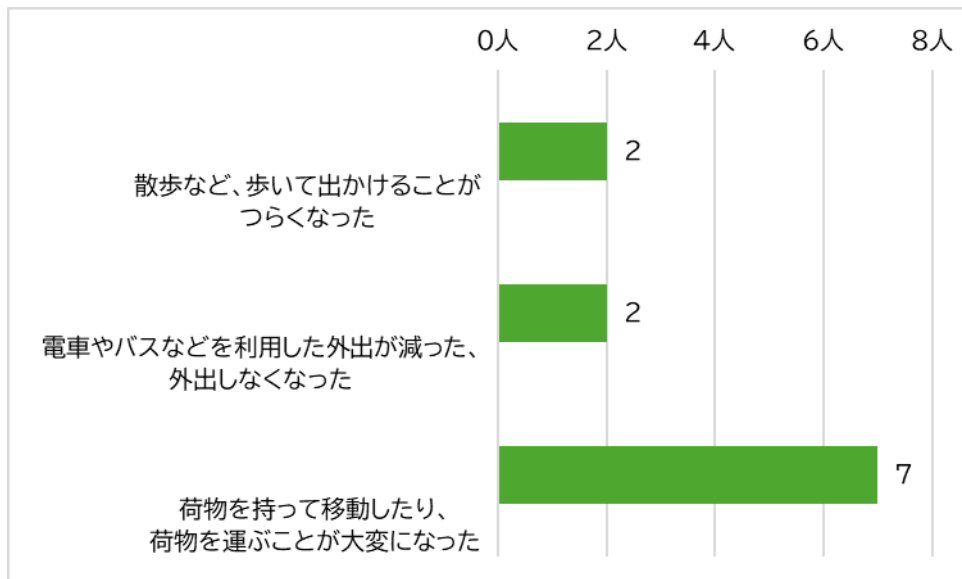
図表 116 家事に関する「お困りごと」(複数回答)



図表 117 入浴に関する「お困りごと」(複数回答)



図表 118 移動に関する「お困りごと」(複数回答)



本テーマでは、日常生活の自立している在宅高齢者が対象のため、より高次の動作である IADL に着目し、食事の準備および移動に関する困りごとについて、参加者への支援を実施することとした。ADL・IADL の分類と本テーマで取り扱う在宅高齢者の困りごとについては以下の通り整理した。

図表 119 ADL・IADL の分類と本テーマで取り扱う在宅高齢者の困りごと

分類	基本的な動作		高次の動作	
	基本的(身体的)ADL ②	基本的(身体的)ADL ①	家庭内の IADL	家庭外の IADL
動作の 代表例	整容	入浴	電話	買い物
	食事	着替え	食事の準備	交通機関の利用
	自宅内の 移動	排泄	服薬管理	金銭管理
			洗濯・掃除	屋外移動

<p> :協力先の福祉用具貸与事業所で取り扱い可能な福祉用具・自助具・便利グッズ等の利用により改善が見込める動作</p> <p>赤字 :テーマ②の参加者で「お困りごと」としての回答が多かった ADL・IADL</p>

b. 「食事の準備」に対する取組

全3回にわたり取組を実施した。1回目の取組では、参加者の課題整理、福祉用具専門相談員からの提案、グッズや対策のデモ体験を行い、各参加者で自身に適したものを自宅でも使っていただいた。2回目の取組では、モニタリングを行い、実際に取り組んだ対策や使用したグッズについて、うまく活用できなかった事例を収集し、福祉用具専門相談員から再度、説明し、改めて各参加者で自身に適したものを検討いただき、自宅でも使っていただいた。3回目の取組では、全体総括として、一連の取組について、自身の気づきにつながったか等、振り返りを行った。

図表 120 「食事の準備」に対する取組内容、当日の様子

【グループワーク「手の機能に関するお困りごと」】

1回目(11/5)【課題整理】【提案】【デモ体験】

- ・ ペットボトルや瓶などの蓋が開けられなかった経験の振り返りを行い、グループ内で共有。
- ・ 福祉用具専門相談員より、ペットボトルや瓶の蓋を開けやすくする対策を説明、デモ実演。
- ・ グッズや対策を試していただく。自宅でも使っていただき、参加者自身で記録を付けていただく。

2回目(12/3)【モニタリング】【検討】

- ・ 前回の取組後から使用したグッズの使い勝手の振り返りを行い、グループ内で共有。
- ・ 福祉用具専門相談員より、うまく活用できなかった事例について対策を説明、デモ実演。
- ・ 再度、グッズや対策を試していただく。自宅でも使っていただき、参加者自身で記録を付けていただく。

3回目(1/7)【振り返り・全体総括】

- ・ 取組で扱ったグッズの使い勝手を振り返り、全体を総括。



c. 「移動」に対する取組

福祉用具専門相談員による歩行補助具の紹介、階段の上り下りに関する講義を1回実施した。加えて、杖や歩行器等の選定方法や使用方法について、福祉用具専門相談員から参加者へ指導し、デモを行った。また、理学療法士からも自宅でできる運動を指導した。今後、移動に支障をきたすことが生じた場合に、どのような対策ができるか、グループ内で検討いただき、全体の意見を取りまとめ、全体を総括した。

図表 121 「移動」に対する取組内容、当日の様子

<p>【グループワーク「移動に関するお困りごと」】(1/7)</p> <p>【講義】【デモ体験】</p> <ul style="list-style-type: none">杖・歩行器等の歩行補助具について、福祉用具専門相談員より種類や使い方を説明し、デモ実演を行った。杖歩行の方法や階段昇降についてもポイントを講義した。福祉用具専門相談員に持参いただいた杖やサロンで所有している歩行器等について、参加者が実際に高さを調整し、使い方のデモ体験を行った。 <p>【課題整理】【提案】【デモ体験】</p> <ul style="list-style-type: none">移動に関して困った経験について振り返りを行い、グループ内で共有。福祉用具専門相談員より、移動に関する対策について説明し、デモ実演。理学療法士から自宅でできる運動方法を指導。どのような対策であれば取り入れられそうか、グループ内でディスカッションを実施。
--



(3) 取組効果と課題

1) 「食事の準備」に対する取組

「食事の準備」に対する取組では、グッズや対策のデモ体験を行い(紹介した便利グッズは図表 122 に示す)、第1・2回の取組後、各参加者に適したものを持ち帰り、自宅でも使っていただいた。参加者に対し、自宅で使用した便利グッズの使用頻度や使い勝手に関するアンケート調査を実施したところ(図表 123)、毎日使用したと回答した参加者は1名のみで、その他の参加者は 8 日以下(1か月あたり)の使用頻度にとどまった。また、使い勝手については(図表 124)、「とても使いやすかった、便利だった」「使いやすかった、あれば便利だった」と回答した参加者が約半数であった。参加者からは、「備えておくと重宝すると思う」、「コツを覚えると手軽に使えた」といった感想が聞かれた一方で、「今のところ自力で開けられるので、今現在はなしでも良い」といった感想も聞かれた。

図表 122 「食事の準備」に関する困りごとの対策として紹介した便利グッズ

<p>⑤ スマイルオープナー</p> <p>ペットボトルを片手で簡単に開けられる</p> <p>6.5cm</p> <p>6.5cm</p> <p>イエロー オレンジ</p> <p>ピンク</p> <p>●サカエ化成</p> <p>841634</p> <p>880円</p> <p>税抜800円</p> <p>■素材/本体:ABS樹脂 ネジ:スチール 吸盤:塩化ビニル</p> <p>●吸盤式なので、冷蔵庫など凸凹のない平らな所に取り付けてご使用ください。</p>	<p>⑥ キャップオープナー</p> <p>ペットボトル、パウチ容器のキャップが軽い力で開けれます</p> <p>7.6cm</p> <p>6.9cm</p> <p>厚さ 1.6cm</p> <p>ピンク ホワイト ブルー</p> <p>●小森樹脂</p> <p>857016</p> <p>308円</p> <p>税抜280円</p> <p>■素材/ABS樹脂</p> <p>●パウチ容器は3タイプのキャップに対応。 ●ペットボトルは2段階構造のオープナーで、いろいろなキャップに対応。</p>	<p>⑦ 使っていいね! キャップオープナー</p> <p>ペットボトル・フルトップ・飲料用パウチのキャップに対応</p> <p>8.7cm</p> <p>4.2cm</p> <p>厚さ1cm</p> <p>フラワー</p> <p>ポタニカル</p> <p>●リッチェル</p> <p>426347</p> <p>550円</p> <p>税抜500円</p> <p>■重量/12g ■素材/ABS樹脂</p>
<p>⑧ フリーオープナー (HS-N40)</p> <p>これひとつでいろいろ開けられる</p> <p>7.5cm</p> <p>15cm</p> <p>厚さ 1.3cm</p> <p>飲料缶、トマト缶</p> <p>ペットボトル</p> <p>からし、わさびなど</p> <p>ゼリー飲料</p> <p>瓶詰めや穴に対応してないフタ</p> <p>●台和</p> <p>806096</p> <p>715円</p> <p>税抜650円</p> <p>■素材/本体:ABS樹脂、合成ゴム ■カラー/ピンク、ブルー</p> <p>●これひとつで缶、ペットボトル、チューブからし、ゼリー飲料、φ5.7cmまでのフタにOK。</p>	<p>⑨ スマホリング+ キャップオープナー</p> <p>スマートフォンがキャップオープナーに早変わり!</p> <p>●日本クロージャー</p> <p>NEW</p> <p>ホワイト ブラック</p> <p>287301</p> <p>1,320円</p> <p>税抜1,200円</p> <p>■重量/6.8g</p> <p>■素材/オープナー:ポリカーボネート ネジ・ナット:ステンレス 両面テープ:アクリル系粘着剤+不織布</p> <p>●キャップオープナーの機能を備えたスマホリング。ペットボトルのキャップを軽い力で開けられます。</p>	<p>⑩ 自動ペットボトルオープナー (GR-85K)</p> <p>10~50mmのキャップに対応</p> <p>約5cm</p> <p>約18.9cm</p> <p>約4.3cm</p> <p>●アビデ</p> <p>841661</p> <p>3,850円</p> <p>税抜3,500円</p> <p>■重量/155g</p> <p>■素材/本体:ABS樹脂、ポリアセタール はさみ口:ポリアミド(繊維強化プラスチック)</p> <p>●あらゆるサイズのペットボトルキャップに対応できます。</p> <p>電池3x2(900)</p>

出所:福祉用具カタログ ウェルファン(福祉用具便利帖 44 号); <https://www.smart-benrichou.jp/m/home>, 2025 年 9 月

26 日取得

図表 123 グッズを使った頻度

(ア) 使用日数

使用期間	全体	0日	2日	3日	4日	8日	30日	無回答
第1回の取組後～ 第2回の取組まで	8	2	2	1	1	1	0	1
	100%	25%	25%	13%	13%	13%	0%	13%
第2回の取組後～ 第3回の取組まで	8	1	2	4	0	0	1	0
	100%	13%	25%	50%	0%	0%	13%	0%

(イ) 1日あたりの使用回数

使用期間	全体	0回	1回	2回	3回	6回	無回答
第1回の取組後～ 第2回の取組まで	8	2	3	0	0	1	2
	100%	25%	38%	0%	0%	13%	25%
第2回の取組後～ 第3回の取組まで	8	1	2	3	2	0	0
	100%	13%	25%	38%	25%	0%	0%

図表 124 グッズの使い勝手

使用期間	全体	とても使 いやす かった、 便利だっ た	使いやす かった、 あれば便 利だった	使いにく かった、 家では全 く使わな かった	無回答
第1回の取組後～ 第2回の取組まで	8	2	2	1	3
	100%	25%	25%	13%	38%
第2回の取組後～ 第3回の取組まで	8	1	3	2	2
	100%	13%	38%	25%	25%

回答いただいた理由(自由記述)

- ・ このようなグッズ、一家に一つ必需品。キッチンに1つ備えておくと重宝すると思う。色・形も可愛いです。
- ・ ペットボトルのフタを回しとるのに苦労していたが、スムーズに取ることができた。缶ジュースのフタは、最初はうまくいかなかったが、慣れてきたらスムーズに開けることができた。
- ・ ペットボトルのフタは家にある 10cm 四方の滑り止めで代用できる。缶のフタは今のところ自力で開けられるので、今現在はなしでも良い。
- ・ コツを覚えると手軽に使えた。

2) 「移動」に対する取組

「移動」に対する取組では、杖や歩行器等の選定方法や使用方法について、福祉用具専門相談員から参加者へ指導し、デモを行った。各取組後の参加者アンケート結果(図表 125)では、「とても参考になった」「参考になった」との回答が 90%であり、自由記述からは「初めて聞いたこともあり、忘れないようにしたいと思った」「知らなかった商品や用具の使い方を教えていただいて、とても参考になりました」といった感想があった。

図表 125 「移動」に対する取組の感想(アンケート結果より)

- 専門家による講義の内容は参考になりましたか(単一回答)

全体	とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	無回答
10	3	6	0	1
100%	30%	60%	0%	10%

- 取組内容に関する感想をお聞かせください(自由記述)

- ・ まだ体が少しは動くので先の話と思う部分も多いのですが、足の痛い方が先に出したほうが良い場合と反対の場合とか、初めて聞いたこともあり、忘れないようにしたいと思った。
- ・ 知らなかった商品や用具の使い方を教えていただいて、とても参考になりました。
- ・ 色々な道具があるんですね。良い時代ですよ。私の親の面倒を見たときはこんなに良い道具がなかったように感じます。

3) 全体の取組について

各取組後に実施したアンケート結果では、70%以上の参加者が「普段の生活を振り返り、お困りごとに気づくことができた」と回答した。また、今回の取組で実施した、専門家の提案やアドバイスの内容、グループでの意見交換やディスカッションについて、90%以上の参加者が「とても参考になった」「参考になった」と回答した。

取組の最後に、サロンの取組として今後も自主的に継続したいか質問したところ、「ぜひ継続したい」「継続したい」と回答した参加者が60%であった。

図表 126 参加者アンケート結果

- 普段のご自身の生活を振り返り、お困りごとに気づくことができましたか(単一回答)

	全体	できた	できなかった	わからない	無回答
第1回	10	9	1	0	0
	100%	90%	10%	0%	0%
第2回	10	9	0	0	1
	100%	90%	0%	0%	10%
第3回	10	7	0	3	0
	100%	70%	0%	30%	0%

- 専門家の提案やアドバイスの内容は、ご自身のお困りごとへの参考になりましたか(単一回答)

	全体	とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	無回答
第1回	10	5	5	0	0
	100%	50%	50%	0%	0%
第2回	10	2	7	0	1
	100%	20%	70%	0%	10%
第3回	10	3	6	0	1
	100%	30%	60%	0%	10%

- グループでの意見交換やディスカッションは、今後の生活の参考になりましたか(単一回答)

	全体	とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	無回答
第1回	10	5	4	1	0
	100%	50%	40%	10%	0%
第2回	10	2	8	0	0
	100%	20%	80%	0%	0%
第3回	10	3	6	1	0
	100%	30%	60%	10%	0%

- 福祉用具・自助具・便利グッズ等の紹介や体験は、今後の生活の参考になりましたか(複数回答)

	全体	自分の知らなかった商品を知ることができた	使ってみたい商品があった	自分に合った商品はなかった	使ってみたい商品はなかった
第1回	10	8	9	0	0
		80%	90%	0%	0%
第2回	10	7	7	1	0
		70%	70%	10%	0%
第3回	10	9	0	2	1
		90%	0%	20%	10%

- 全3回のサロンで実施した、福祉用具・自助具・便利グッズ等に関する紹介や体験、介護予防に関する講義等について、今後も自主的にサロンの取組として継続したいですか(単一回答)

全体	ぜひ継続したい	継続したい	継続したくない	無回答
10	3	3	0	4
100%	30%	30%	0%	40%

4) 振り返りの内容

モデル的試行を実施した後、振り返りのヒアリングにおいて、課題や今後に向けた取組について把握した。ヒアリングで得た内容は以下の通り。

図表 127 福祉用具専門相談員を含む多職種による地域の自主グループ支援のあり方:ヒアリング結果
(福祉用具専門相談員の意見)

- ・ 参加者の方に知らなかった用具等を知っていただいた。定期的にこのような機会があれば、自身も勉強になると感じた。
- ・ 近くで用具に対する助言ができることで、参加者も安心感をもって取り組んでいただけたのではないかと思う。満足度の高い内容であったという感想が得られており良かった。課題については、リハビリテーション専門職から助言をもらいたいことも、逆にリハビリテーション専門職が福祉用具専門相談員から助言を得たいこともあると思うが、なかなか連携が難しい。どのようにしていけばよいか、これまであまり考えたことがなかった。
- ・ 現状は地域住民や在宅高齢者からの相談を受けるような機会がない。当法人は店舗を併設していないため、病院、地域包括支援センター、介護支援専門員等からの紹介がほとんどである。

3.3.3 テーマ③

円滑な在宅生活のための福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援 (介護老人保健施設からの退所時支援)

(1) モデル地域

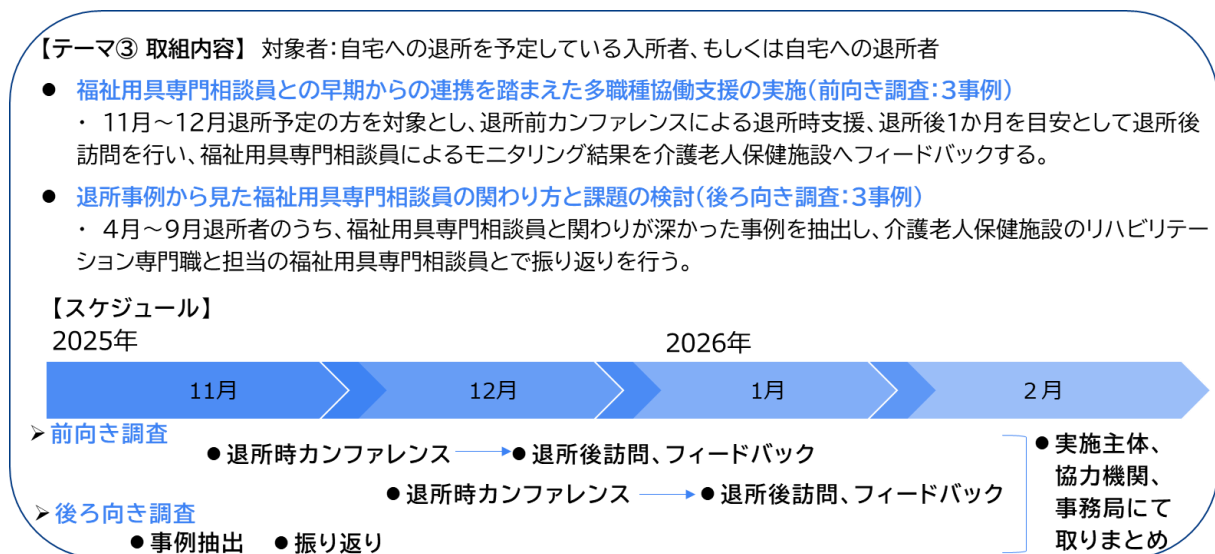
協力機関:介護老人保健施設1件、福祉用具貸与事業所6件

(2) 取組内容

1) 実施概要

取組の実施概要は以下の通り。

図表 128 テーマ③実施概要



2) 取組実施に向けた準備

9月22日、介護老人保健施設との打合せを実施し、自宅退所の利用者の状況を確認し、具体的な調査内容について協議した(打合せ資料は図表129に示す)。

10月20日、調査で使用する様式を作成し、介護老人保健施設へ共有した。

介護老人保健施設にて対象事例を選定いただき、11月より前向き調査・後ろ向き調査を実施いただいた。

図表 129 (参考)打合せ資料

モデル的試行 テーマ③ 取組内容(案)

1. 福祉用具専門相談員との早期からの連携を踏まえた多職種協働支援の実施

- 目的:介護老人保健施設からの退所時支援における福祉用具専門相談員との連携による好事例の創出、望ましい関わり方の検討
- 事例数:4~5事例(11月~12月退所予定の方を対象に、月1~2事例程度)
- 内容:対象となる自宅退所予定者の方に対して、福祉用具専門相談員を含めた退所時支援、及び退所後のフォローアップを行う。

退所前の支援

① 退所時支援



➢ 介護老人保健施設のリハビリテーション専門職、看護師、介護職員等と、退所予定者が利用予定の居宅介護支援事業所の介護支援専門員、福祉用具貸与事業所の福祉用具専門相談員とで、退所前カンファレンスを開催し、自宅に退所するにあたって必要な支援の内容を検討する。

➢ 担当の福祉用具専門相談員が「テーマ③退所時支援・フォローアップ様式」の「退所時支援」ワークシートに協議内容を記載し、対象となる利用者様に必要な支援の内容を介護老人保健施設へ共有する。

② 退所後のフォローアップ

退所後の支援



➢ 退所後1か月を目途とし、介護老人保健施設のリハビリテーション専門職による退所後訪問を行い、福祉用具の利用状況等について確認する。その際、担当の福祉用具専門相談員も同席してモニタリングを行い、「テーマ③退所時支援・フォローアップ様式」の「退所後FU」ワークシートを記載し、介護老人保健施設に共有する。

➢ 退所後訪問終了後、介護老人保健施設のリハビリテーション専門職と担当の福祉用具専門相談員で、退所時支援の取組の効果や課題等について振り返りを行う。

2. 退所事例から見た福祉用具専門相談員の関わり方と課題の検討

- 目的:介護老人保健施設からの退所時支援における福祉用具専門相談員の望ましい関わり方の検討
- 事例数:2事例程度(4月~9月退所者のうち、福祉用具専門相談員と関わりが深かった事例を抽出)
- 内容:利用者の現状や提案した福祉用具の利用状況等について確認し、介護老人保健施設のリハビリテーション専門職と担当の福祉用具専門相談員で、退所時支援の取組の効果や課題等について振り返りを行う。



a. 福祉用具専門相談員との早期からの連携を踏まえた多職種協働支援の実施(前向き調査:3事例)

介護老人保健施設における退所時支援を想定した、福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援を実践するため、自宅退所予定の入所者に対し、多職種協働による福祉用具・住宅環境の調整支援を行った。さらに、退所1か月後を目途に福祉用具専門相談員によるモニタリングを実施し、入所していた介護老人保健施設へ結果をフィードバックし、退所時および退所後のフォローアップの取組を実践した。

ア) 利用者の選定および取組内容

対象利用者は3名で、2025年11月～12月の期間に自宅へ退所する利用者とした。なお、対象利用者により、利用する福祉用具貸与事業所が異なるため、それぞれ異なる事業所に所属する福祉用具専門相談員との取組を実施した。

対象の利用者には、退所時支援として、多職種による退所時支援の内容の協議(退所前カンファレンスの開催)、福祉用具専門相談員による「退所時支援」様式(図表 131)を通じた介護老人保健施設への情報共有を行った。

さらに、退所後1か月を目途として、多職種による退所後訪問を行った。退所後訪問には福祉用具専門相談員も同行し、モニタリングした結果を「退所後モニタリング」様式(図表 132)として取りまとめた。加えて、多職種による退所時支援の取組の振り返りを行い、リハビリテーション専門職により「振り返りシート」(図表 133)を作成した。

図表 130 (参考)福祉用具貸与事業所への依頼状

<p>福祉用具貸与事業所 御中</p> <p>厚生労働省老健局高齢者支援課</p> <p>「在宅高齢者への多職種による支援を踏まえた福祉用具貸与事業所の役割に関する調査モデル研究事業」調査へのご協力のお願い</p> <p>介護保険制度及び高齢者保健福祉の推進につきましては、平素より格別のご理解とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。</p> <p>今般、令和7年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)を活用し、一般社団法人日本福祉用具供給協会により「在宅高齢者への多職種による支援を踏まえた福祉用具貸与事業所の役割に関する調査モデル研究事業」が実施されます。福祉用具専門相談員は、介護支援専門員、医師やリハビリテーション専門職との連携協働が位置づけられ、サービスの質の向上や専門性の発揮が期待されているところです。本事業では、在宅高齢者への多職種による支援を踏まえた福祉用具貸与事業所の支援のあり方を検討するため、実態調査とモデル的試行を実施します。</p> <p>3テーマで実施するモデル的試行のうち、テーマ③では介護老人保健施設における退所時支援を想定した、福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援を実施します。具体的には、自宅退所予定の入所者に対し、多職種連携による福祉用具・住宅環境の調整支援を行います。さらに、退所1か月後を目途に福祉用具専門相談員によるモニタリングを実施し、入所していた介護老人保健施設へ結果をフィードバックすることにより、退所時および退所後のフォローアップの取組効果を把握します。</p> <p>つきましては、業務ご多用のところお手数をおかけしますが、本調査の趣旨を十分ご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>別紙1</p> <p>ご協力いただきたい事項</p> <p>1. 退所時支援</p> <p>介護老人保健施設 様のリハビリテーション専門職、看護師、介護職員等と退所予定の利用者様が利用予定の居宅介護支援事業所の介護支援専門員、福祉用具貸与事業所様の福祉用具専門相談員とで、自宅退所に向けた支援を協議し、実践いただきます。</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 多職種による退所時支援の内容の協議 対象となる利用者様の退所前に、リハビリテーション専門職、看護師、介護職員等と、介護支援専門員、福祉用具専門相談員とで、自宅退所予定者の退所前カンファレンスを開催し、対象となる利用者様が自宅に退所するにあたって必要な支援の内容を検討する。➤ 福祉用具専門相談員による「テーマ③退所時支援・フォローアップ様式」の作成 担当の福祉用具専門相談員が「テーマ③退所時支援・フォローアップ様式」の「退所時支援」ワークシートに協議内容を記載し、対象となる利用者様に必要な支援の内容を介護老人保健施設 様へ共有する。 <p>2. 退所後のフォローアップ</p> <p>対象となる利用者様の退所後、福祉用具専門相談員によるモニタリングを行い、その内容を介護老人保健施設 様に共有し、退所時支援の効果について多職種にて再評価いただきます。</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 福祉用具専門相談員による退所後のモニタリングの実施 退所後1か月を目途として、対象となる利用者様の退所後訪問に福祉用具専門相談員が同席する。福祉用具専門相談員によるモニタリングを行い、「テーマ③退所時支援・フォローアップ様式」の「退所後 FUI」ワークシートを記載し、介護老人保健施設 様に共有する。➤ 多職種による退所時支援の取組の振り返り リハビリテーション専門職、看護師、介護職員等と福祉用具専門相談員とで、退所時支援の振り返りの場を設定する。退所時支援の取組について振り返りを行い、取組効果について議論する。
--	--

図表 131 (参考)「退所時支援」様式

退所時支援			
※設問は、下記の通りご回答ください。			
<input type="text"/>		⇒文字等を入力してください。	
支援の実施日		利用者名(ID等)	
年齢		性別	
要介護度		キーパーソン・同居者	
・退所後の生活の目標			
退所直後:	<input type="text"/>		
退所後、1週間:	<input type="text"/>		
退所後、1か月:	<input type="text"/>		
・利用者の意欲・希望			
<input type="text"/>			
・自宅に退所するうえでの課題			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
4.	<input type="text"/>		
5.	<input type="text"/>		
・自宅退所までの必要な支援内容(入所中に退所時支援として実施する支援、導入する福祉用具等)			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
4.	<input type="text"/>		
5.	<input type="text"/>		
・自宅退所後に利用が想定されるサービスや活動(介護保険サービス、自費サービス、社会参加活動等)			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
4.	<input type="text"/>		
5.	<input type="text"/>		

図表 132 (参考)「退所後モニタリング」様式

退所後モニタリング			
※設問は、下記の通りご回答ください。			
<input type="text"/>		⇒文字等を入力してください。	
<input type="text"/>		⇒プルダウンメニューから1つ選んでください。	
モニタリング実施日		利用者名(ID等)	
・利用者の変化			
身体状況・ADLの変化	(選択)	家族の状況の変化	(選択)
意欲・意向等の変化	(選択)	利用サービス・住環境の変化	(選択)
・退所後の生活の目標達成状況			
退所後の生活の目標 ※自動的に転記されます		達成状況	理由
退所直後:	<input type="text"/>	(選択)	<input type="text"/>
退所後、1週間:	<input type="text"/>	(選択)	<input type="text"/>
退所後、1か月:	<input type="text"/>	(選択)	<input type="text"/>
・支援内容の見直しの必要性			
(選択) <input type="text"/>			
・利用者の意欲・希望(モニタリング実施日時点)			
<input type="text"/>			
・自宅での生活における課題(モニタリング実施日時点)			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
4.	<input type="text"/>		
5.	<input type="text"/>		
・自宅退所後の介護保険等サービスの利用状況や社会活動への参加状況			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
以下は、ご協力いただいた取組の内容を振り返り、ご回答ください。			
・今回実施した退所時支援のうち、利用者の在宅生活に向けた自立支援として役立った取組			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
・今回実施した退所時支援のうち、利用者の在宅生活に向けた自立支援として不足していたこと			
1.	<input type="text"/>		
2.	<input type="text"/>		
3.	<input type="text"/>		
・多職種による退所時支援(退所前の協議、退所後のフィードバック等)に参加した感想			
<input type="text"/>			
・多職種による退所時支援に福祉用具専門相談員が参加するにあたり、感じた課題			
<input type="text"/>			

退所後モニタリング	
・今後、退院時支援を実践するうえで取り入れられると想った取組内容	
1.	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>
・今後、退院時支援を実践するうえでの課題	
1.	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>

図表 133 (参考)振り返りシート(リハビリテーション専門職向け)

退所時支援 振り返りシート(リハビリテーション専門職向け)

※設問は、下記の通りご回答ください。

⇒ 文字等を入力してください。

回答者の職種	PT・OT・ST	※該当する職種を記載ください(非該当の職種は削除)	
退所後訪問実施日		利用者名(ID等)	

以下は、ご協力いただいた取組の内容を振り返り、ご回答ください。

・今回実践した退所時支援のうち、利用者の在宅生活に向けた自立支援として役立った取組

1.	
2.	
3.	

・今回実践した退所時支援のうち、利用者の在宅生活に向けた自立支援として不足していたこと

1.	
2.	
3.	

・福祉用具専門相談員を含めた多職種による退所時支援(退所前の協議、退所後のフィードバック等)を行った感想

--	--

・今回実践した退所時支援に対する、担当の介護支援専門員からの感想

(福祉用具専門相談員を含めた多職種による退所時支援の良かった点・取組内容、取組における課題 等)

--	--

・福祉用具専門相談員を含めた多職種による退所時支援を行うにあたり、感じた課題

--	--

・今後、退院時支援を実践するうえで取り入れられると思った取組内容

1.	
2.	
3.	

・今後、退院時支援を実践するうえでの課題

1.	
2.	
3.	

イ) 各利用者の取組内容

各利用者に対する取組内容は以下の通り。

図表 134 利用者 A:リフト導入事例

<p><利用者 A:リフト導入事例> 79 歳、男性(要介護4) キーパーソン・妻 【ポイント】家族による移動用リフトの操作</p>	
<p>退所時支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入:車椅子、移動用リフト、スロープ。 退所の2か月前と1か月前にデモ機を使用した家族指導を実施。退所前に多職種で打合せを行う。 	<p>退所後1か月の状況・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族の操作で移乗リフトが使用できた。 多職種にてリフトの操作を再評価し、操作性向上のため、床材を改修することとなった。
<p>リハビリテーション専門職の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族が移動用リフトを使えるかどうかが一番の懸念点であったが、退所前に福祉用具貸与事業所から、評価に十分な期間のデモ貸出をしてもらえたので、円滑な在宅生活につながった。 <p>介護支援専門員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 退所前の多職種協働により、キーパーソンとなる家族の介護力を評価し、家族に「がんばらせすぎない」ことを念頭に置いたケアプランを検討できた。 	

図表 135 利用者 B:福祉用具活用事例

<p><利用者 B:福祉用具活用事例> 83 歳、女性(要介護2) キーパーソン・娘 【ポイント】自宅内移動の自立支援</p>	
<p>退所時支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入:歩行器、手すり、特殊寝台。 退所前に歩行器をデモで使用。自宅復帰に向けて、福祉用具の操作に慣れていただく。 	<p>退所後1か月の状況・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内独歩可能となり、歩行器を返却へ。 多職種にて靴の着脱動作を再評価し、立位で行えるよう、住宅改修にて手すりを設置することとなった。
<p>リハビリテーション専門職の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内では概ね ADL が自立していたが、退所後のフィードバックにより、自宅アプローチや上がり框の段差で、支持物の使用が望ましかった等、自宅生活を開始することでわかる課題を把握できた。 想定とは異なり、自宅内独歩も可能となり、室内用歩行器は使用頻度が少なく、退所後1週間で返却となった。 <p>介護支援専門員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議にて住環境を検討することができ、実際に導入を検討する福祉用具のデモ機を2週間ほど使用し、本人が慣れた状態で自宅へ退所することができた。 	

図表 136 利用者 C:車椅子による環境調整事例

<利用者 C:車椅子による環境調整事例>68 歳、男性(要介護4) キーパーソン・兄弟 【ポイント】車椅子ベースの住環境整備	
退所時支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入:特殊寝台、車椅子、手すり。 ・ 担当者会議で、車椅子ベースを想定した、自宅内の動線の環境調整を検討。 	退所後1か月の状況・振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に車椅子ベースの生活ができていた。 ・ 多職種にてベッドの移乗動作を再評価し、手すりを1本追加で設置することとした。
リハビリテーション専門職の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退所前に想定した車椅子ベースの生活環境について、退所後も支障がないか、フィードバックにより確認できて良かった。退所時訪問で福祉用具専門相談員と一緒にベッド移乗を評価し、施設環境では把握できなかった能力を確認することで、追加の福祉用具を検討でき、今後の福祉用具検討時の参考になった。 介護支援専門員の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退所後のフォローアップにより、自宅で福祉用具を有意義に利用して安全に在宅生活が実際にできていることを各専門職が再評価し、ケアプランを調整できた。 	

b. 退所事例から見た福祉用具専門相談員の関わり方と課題の検討(後ろ向き調査:3事例)

介護老人保健施設からの退所時支援における福祉用具専門相談員の望ましい関わり方を検討するため、過去に福祉用具専門相談員が関与した事例について、後ろ向き調査を実施した。

ア) 利用者の選定および取組内容

令和7年4月～9月の期間における退所者で福祉用具専門相談員が関与した事例のうち、介護老人保健施設のリハビリテーション専門職が選定した利用者3名を対象とした。なお、対象利用者により利用する福祉用具貸与事業所が異なるため、それぞれ異なる事業所に所属する福祉用具専門相談員との取組を実施した。

対象利用者について、担当のリハビリテーション専門職と福祉用具専門相談員とで振り返りを行った。主な振り返り項目は、以下の通り。

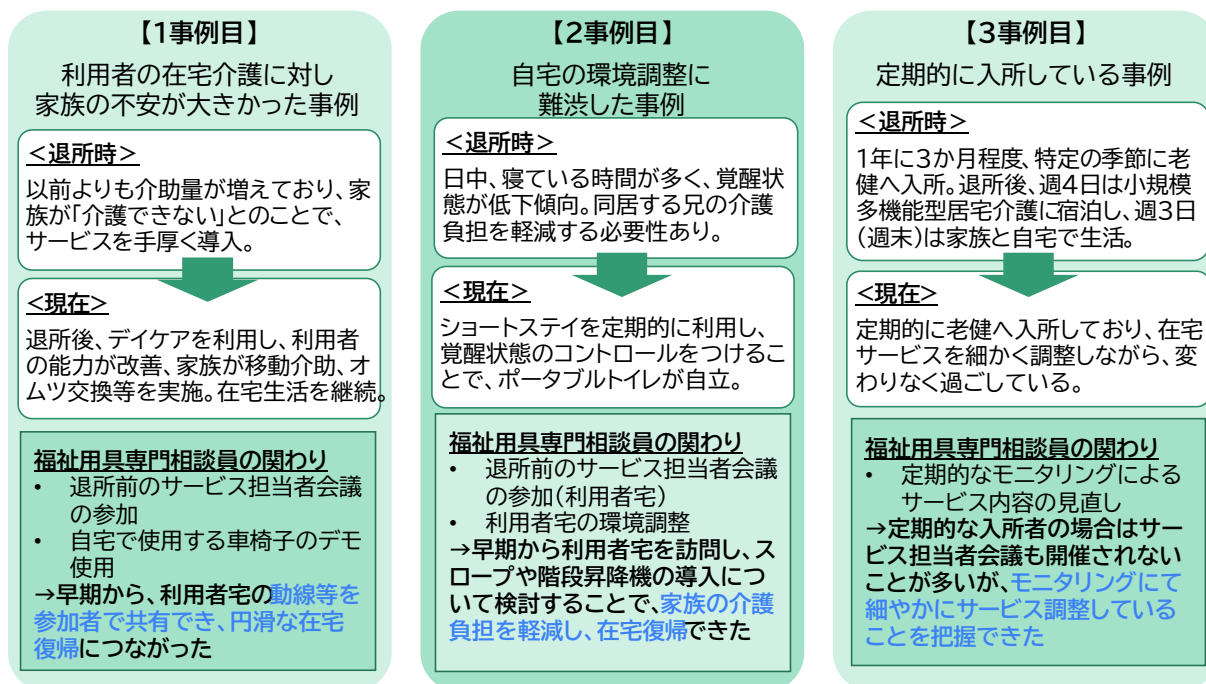
図表 137 後ろ向き調査:主な振り返り項目

<ul style="list-style-type: none"> ➤ 退所後の利用者の生活状況 ➤ 現在の利用者の福祉用具の利用状況 ➤ 退所時支援の内容から見直したこと ➤ 退所時支援で想定できなかったこと ➤ 福祉用具専門相談員が退所時支援から関わることで良かったと感じた点 ➤ 退所時支援で良かった取組 等
--

イ) 振り返り事例

対象事例の振り返り結果は、以下の通り。

図表 138 振り返りの対象事例(3事例)



(3) 取組効果と課題

テーマ③では円滑な在宅生活のための福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援を検討するため、退所時支援に関する2つの取組についてモデル的試行を実施した。取組全体に関する振り返りのヒアリングにおいて、課題や今後に向けた取組について把握した。ヒアリングで得た内容は以下の通り。

図表 139 福祉用具専門相談員を含むケアチームのあり方について:ヒアリング結果
(介護老人保健施設のリハビリテーション専門職の意見)

1. 取組で得られた効果

- 退所時に100点の提案ができたわけではなく、退所後1か月で見直しが必要なケースもあり、退所後に福祉用具専門相談員と一緒に振り返りができたのはよかった。今回のケースに限らず、退所時に変更ができない工事は施工しないように意識しており、退所後のフォローアップができ良かった。
- 退所後訪問時に福祉用具専門相談員が参加し、その場で住環境調整の検討ができて良かった。

2. 取組の課題

- 福祉用具専門相談員とは電話で連絡することが多いが、外回りをしているため繋がらないことが多く、日時の調整に時間がかかる。情報伝達がもっと楽にできると良い。
- 介護支援専門員を経由するため、特定の事業所と連携しているわけではなく、基本的にはどの事業所も同様に関わっている。特定の事業所との関わりが深いほうが、連携がとりやすいメリットがあると思うが、1対1の関係性になりすぎるのも良くないので、難しく感じる。

3. ケアチームにおける多職種協働支援の実践に向けた整理

- 以前から福祉用具専門相談員との連携はしているが、加算対象の利用者以外も含め、全利用者に対し退所時支援を実施するのは現実的に難しいと感じる。人間的にもう少し余裕があれば、退所後の生活環境の確認まで行うことができるのではないかと。
- 自宅退所ではなく施設系サービス等への入所の場合は、施設側で用意している福祉用具に限りがあり、調整が難しいこともある。福祉用具貸与につながれると良いのではないかと。

3.4 モデル的試行で得られた取組効果、課題

(1) 要支援以前の地域在住高齢者も支援するための福祉用具貸与事業所の望ましいあり方

テーマ①要支援以前の地域在住高齢者も支援するための福祉用具貸与事業所の望ましいあり方において、福祉用具貸与事業所としてどのように要支援以前の高齢者の支援ができるかを検証した。地域包括支援センターと福祉用具貸与事業所が連携し、トレーニンググッズ等を提供することで地域の在宅高齢者の運動機能の維持・改善に寄与できることが効果として把握できた。

一方、今回の取組を通じて、同様の取組を他地域でも展開していくにあたっての課題も把握できた。まず、1点目の課題として、支援すべき対象者の抽出方法が挙げられる。本事業の取組では、既に地域包括支援センターが日頃から様々な形で地域住民への支援を行っていたため、どこで、どのように福祉用具の展示やフレイル予防の支援を行うことが可能か、一緒に検討することができた。日頃から地域の実情を把握し、活動している地域包括支援センター等の協力が不可欠である。

2点目の課題として、地域在住の在宅高齢者に対する支援に向けた福祉用具貸与事業所としての連携体制が挙げられる。本取組では、予め地域の高齢者の困りごとやニーズを把握していたことが重要な要因であった。運動に興味関心のあるサロン参加者へ必要なサポートをしたことで、実際の効果として参加者の運動機能の維持・向上に資する支援が実現できた。地域によっては地域包括支援センターだけでなく、自治会や老人会、社会福祉協議会等、地域の実情を把握している組織は異なることが振り返りのヒアリングにて示唆されており、福祉用具貸与事業所としてどのような組織と連携することで、どのように専門性を発揮していけるのか考えていくことが必要であることがわかった。

3点目の課題として、福祉用具貸与事業所として要支援以前の高齢者へ継続して支援していくための費用負担が挙げられる。本事業ではモデル的試行として試供品の提供は事業費にて負担したが、取組に参加した専門職の人件費等については地域包括支援センターおよび福祉用具貸与事業所として通常業務の範囲内と位置付けてご協力いただいた。在宅高齢者への支援については、継続的な関わりが必要であり、どのように費用を負担するかといった点も他地域でも同様の取組・効果を得るためには必要な検討事項である。

(2) 福祉用具専門相談員を含む多職種による、地域の自主グループ支援

テーマ②福祉用具専門相談員を含む多職種による、地域の自主グループ支援において、在宅高齢者に対する福祉用具・自助具・便利グッズを含む自立支援の取組を実施した。通常、福祉用具専門相談員においては、要支援・要介護者に対するサービス提供の機会が多くを占めるが、今回の取組では、要支援・要介護認定を受けていない在宅高齢者に対し、介護予防の観点での支援を実践した。今回の取組で紹介した福祉用具や便利グッズについて、正しい使い方や使用場面に関する知識の少ない参加者もあり、興味・関心を持って取組に参加いただけた方も多かった。アンケート結果を見ても、90%以上の参加者が、専門家の提案やアドバイスの内容について「とても参考になった」「参考になった」と回答しており、福祉用具専門相談員から各参加者に対し適した助言をもらえたことは、参加者にとっても満足度の高い内容だったと推察される。また、取組においては、参加者に便利グッズ等を持ち帰ってもらい、日常生活での実践にも取り組んでいただくことができた。今回の取組は日常生活の困りごとへの気づきにつ

ながら、日常生活に支障をきたした際の知識として役立てていただける機会となり、実際に参加者が取組の必要性を実感し、購入につながったケースもあった。さらに、今回の取組により、要支援・要介護認定を受けていない在宅高齢者が、加齢に伴って日常生活に支障をきたした場合、どこに相談すれば良いか、どのように対応すればよいか、困ったときに頼れる窓口の1つとして福祉用具貸与事業所や地域包括支援センターを紹介するきっかけになった。

一方で、今回の取組に参加した福祉用具専門相談員からは、「リハビリテーション専門職から助言をもらいたいことも、リハビリテーション専門職が福祉用具専門相談員から助言を得たいこともあると思うが、なかなか連携することが難しい。どうすべきか、これまであまり考えたこともなかった。」との声が聞かれ、多職種支援のための体制作りは今後の課題の1つとして挙げられた。

加えて、実際に福祉用具専門相談員が要支援・要介護認定を受けていない在宅高齢者に対し介入する機会は少ないのが現状である。地域の状況に応じて、在宅高齢者への支援としての多職種協働体制をどのように構築するかが課題の一つとして挙げられる。また、福祉用具貸与事業所においても、要支援・要介護認定を受けていない在宅高齢者も含めたサービス提供を行う上で、提供するサービスの内容や地域における役割について検討する必要がある。特に店舗やショールームを併設していない福祉用具貸与事業所では、病院、地域包括支援センター、介護支援専門員等からの紹介によるサービス提供が主となるため、地域住民と直接関わる機会をいかに創出するかという点も大きな課題である。

(3) 円滑な在宅生活のための福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援

テーマ③円滑な在宅生活のための福祉用具専門相談員を含むケアチーム支援において、退所時および退所後のフォローアップの取組による効果を把握した。福祉用具専門相談員が退所時支援に関わることで、退所前に福祉用具のデモ利用を行い、利用者の自立支援に必要な福祉用具を適切に選定することができ、円滑に自宅退所ができるといったメリットが挙げられた。さらに、福祉用具専門相談員が退所後の利用者の状況を介護老人保健施設に共有することで、今まで把握する機会のなかった利用者の退所後の在宅生活を知ることができた。福祉用具専門相談員が利用者の退所後の変化を介護老人保健施設や介護支援専門員へ共有することで、現在の利用者の状況に適した住環境やケアプランへ見直すきっかけになった事例もあった。また、今後、退所後の利用者の状況も含めて事例として蓄積することにより、介護老人保健施設のリハビリテーション専門職の経験や知識となり、スキルアップにつながることも期待される。

福祉用具専門相談員との連携による効果を把握できた一方で、連携をするにあたっての課題もあった。1点目として、福祉用具専門相談員は営業等により出先にいることが多く、連絡がつかず、予定を合わせるが大変であることや、電話連絡が主となり、効率的に連携する仕組みがないといったことが挙げられた。2点目として、介護支援専門員を経由するため特定の事業所と連携しているわけではなく、基本的にはどの福祉用具貸与事業所とも同様に関わる必要があることが挙げられ、効率的な連携体制を作ることが難しい現状がある。3点目として、長期的に関わる利用者について、介護支援専門員が変更となった際、福祉用具サービスを提供する福祉用具貸与事業所も変更となり、これまで継続的に支援してきたことが途切れることも課題として挙げられた。4点目として、介護老人保健施設の職員の人員的な余裕がなく、加算対象の利用者以外も含め、全利用者に対し退所時支援を実施するのは現実的に難しいことが挙げられた。退所後、利用者の自宅での生活を振り返り、フォローアップできることが理想であるが、人員的・コスト面での課題があり、退所後のフォローアップまで含めた支援が難しいことも課題で

ある。5点目として、自宅退所ではなく施設系サービス等への入所の場合は、施設側で用意している福祉用具に限りがあり、調整が難しいことが挙げられた。

(4) モデル的試行のまとめ

本事業で実施したモデル的試行について、テーマ①②の取組を「(1)要支援・要介護者以外の高齢者への介護予防に資する福祉用具貸与事業所の支援のあり方」、テーマ③の取組を「(2)介護老人保健施設からの退所時支援における福祉用具専門相談員の効果的な介入」として整理した。全体のまとめは以下の通り。

図表 140 モデル的試行のまとめ

